ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

DJ-P300

ウエブ版 取扱説明書

本書は製品同梱の説明書から安全上の注意や余白などを削除して、拡張セットモードなどを追記した、操作説明に特化した取扱説明書です。製品のＱＲコードにリンクしています。
安全のため、初めてお使いになるときは、必ず製品版説明書の安全上の注意をお読みください。

RoHS

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本製品の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。アフターサービスなどについても記載していますのでこの取扱説明書は大切に保管してください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。
本製品は免許・資格不要の特定小電力無線電話として、各種通信にお使いいただけます。

アルインコ株式会社

目次

1 お使いになる前に

本機をお使いになる前にお読みください。

・・・・・・・・ 付属品と取り付け方 ・・・・・・・・

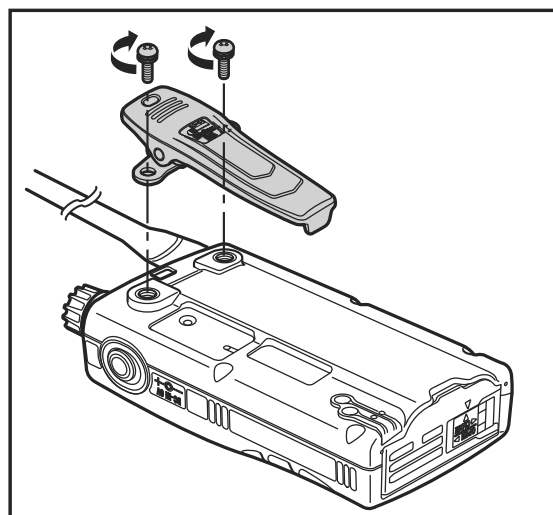
付属品をご確認ください。

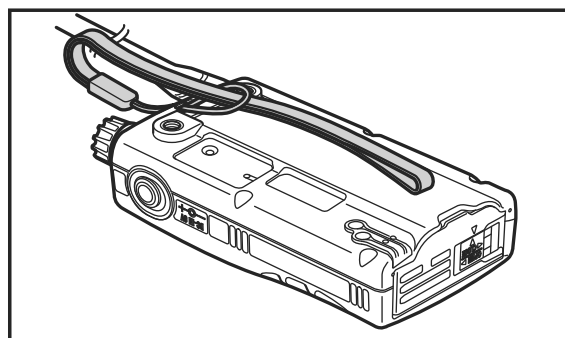
□ ベルトクリップ（ネジ２本）
□ ハンドストラップ
□ 取扱説明書（本書）
□ 保証書

保証書にご購入日の日付が記載されていないときは、領収書やレシートを保証書といっしょに保管してください。ご購入日を証明できる書類がないと保証サービスは無効になりますのでご注意ください。

■ ベルトクリップの取り付け

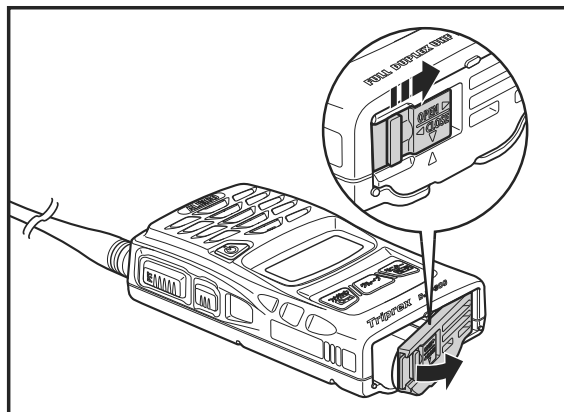
ベルトクリップを付属のネジ２本で本機の背面に取り付けます。

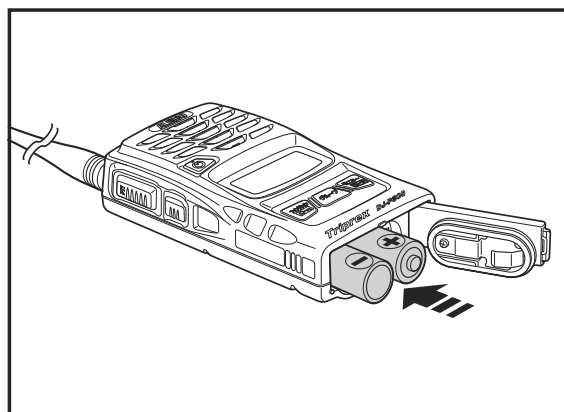
ベルトクリップでトランシーバーを体の横や背中に取り付けてください。イヤホンマイクなどをご使用のときは余ったケーブルを束ねてください。かがんだときにプラグやアンテナに過度な力が加わらないようご注意ください。定期的にネジにゆるみがないか点検してください。ベルトクリップは消耗品です。スペアー部品（EBC-43）として販売していますので、お買い求めの際は販売店にご相談ください。

■ ハンドストラップの取り付け

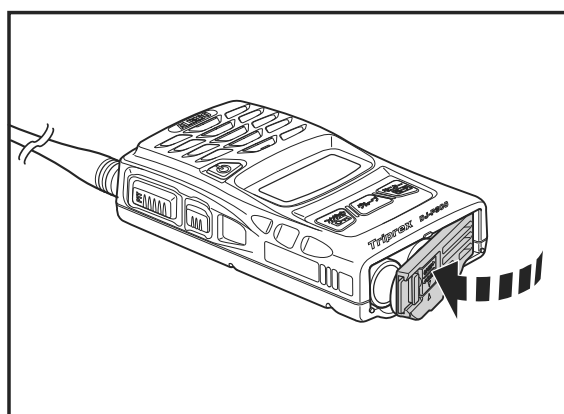
本機背面上部にあるストラップ用の通し穴に取り付けます。

・・・・・・・・・ 電池の入れ方 ・・・・・・・・・

単三形乾電池 2 本またはオプションのバッテリーパック（EBP-60）を装着します。

❶ カバーを開ける

ロックレバーを OPEN ▷側へスライドさせながらカバーを開けます。

❷ 電池を入れる

単三乾電池 2 本を、ケース内側の「+ / −」の表示にしたがって装着してください。
バッテリーパックをお使いの際は、バッテリーパックの突起位置を確認して端子が奥になるように装着してください。

❸ カバーを閉める

カバーを本体上方向へ押さえて閉めてください。

- ＋ / −の向きを間違わないようにご注意ください。
- 電池は同じ種類の新しいものをご使用ください。
  大容量アルカリ電池の使用をお勧めします。
- 市販の充電池は形状や電気仕様が異なるためご使用になれません。
- 本機を長期間使用しないときは電池を取り外してください。

・・・・・・・・・ 充電方法 ・・・・・・・・・

● バッテリーパックと充電器について

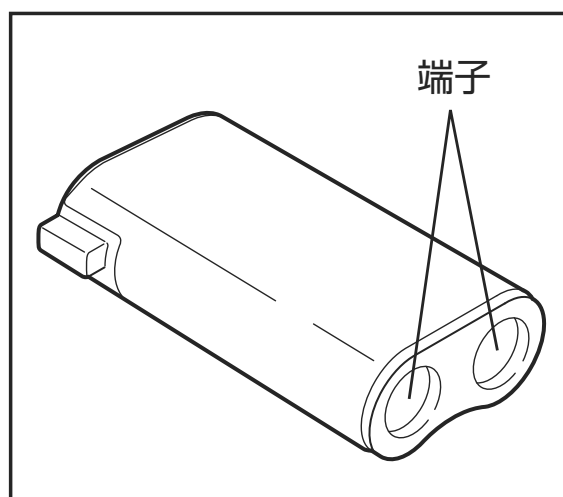
バッテリーパック、充電器および関連するオプション製品は下記のとおりです。

リチウムイオンバッテリーパック	：EBP-60（3.7V-1200mAh）
シングル充電スタンド	：EDC-131
シングル充電器セット	：EDC-131A（AC アダプター付属）
AC アダプター	：EDC-122
ツイン充電器セット	：EDC-167A（AC アダプター付属）
ツイン連結スタンド	：EDC-167R
連結用 AC アダプター	：EDC-162 （EDC-167A/R 連結時必要）

注意

・オプションの バッテリーパックは出荷時には十分には充電されていません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
・充電は 0℃～ 40℃の温度範囲内でおこなってください。
・バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱、破裂などの恐れがあり大変危険です。
・バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や発熱による火災、火傷の原因になることがあります。
・継続的な充電や放電状態での放置はバッテリーパックの劣化を早める原因になることあります。
・バッテリーパックの保存は、-5℃～ 35℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や湿度が高い場所では、液漏れや金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
・バッテリーパックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命を迎えています。新しいものにお取替えください。

■ バッテリーパックの取り扱いについて

バッテリーパックを持ち運ぶときは端子をショートさせないようご注意ください。
大電流が流れて火災、火傷の原因になることがあります。

■ バッテリーパックの保管について

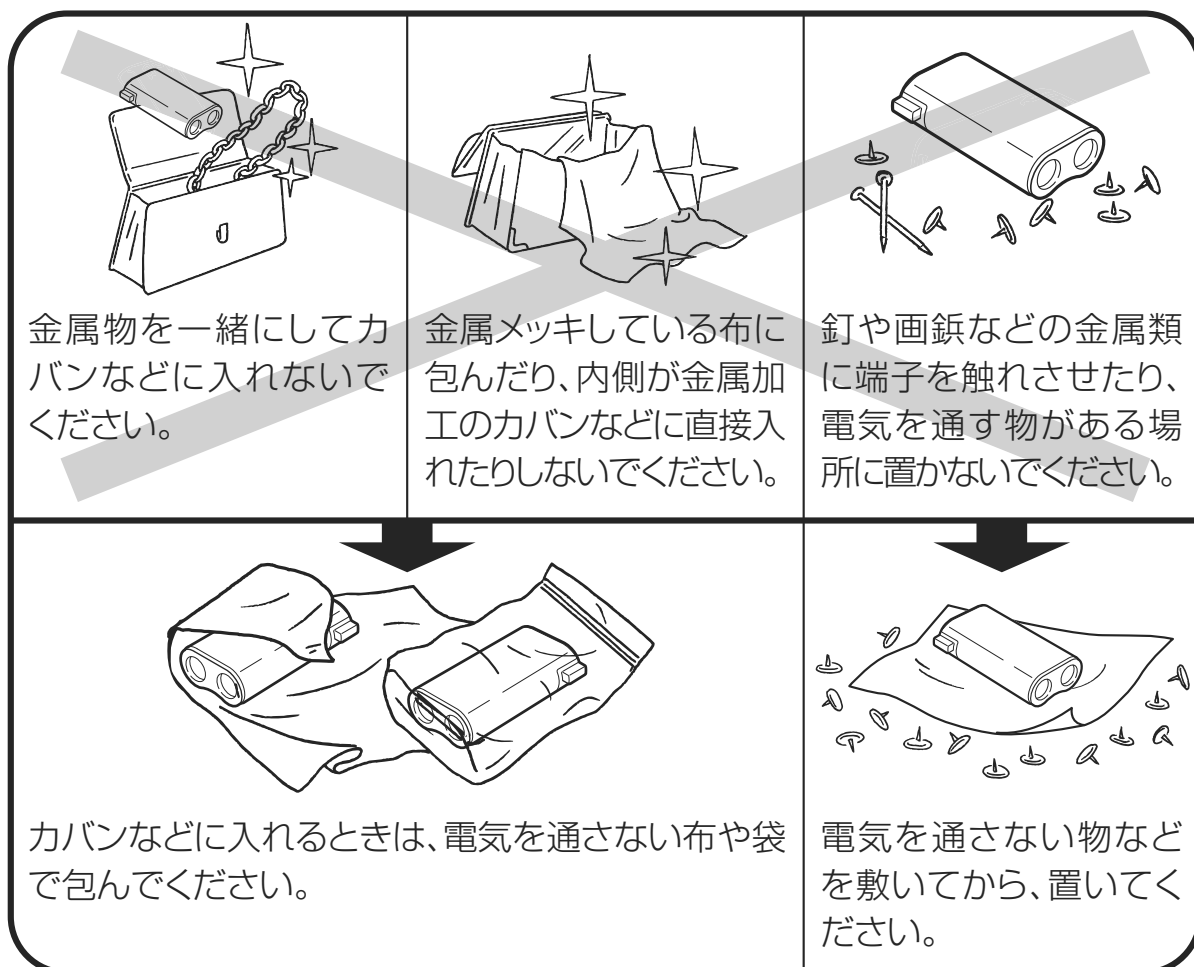
バッテリーパックを保管するときは、以下のことにご注意ください。

金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。

金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。

釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。

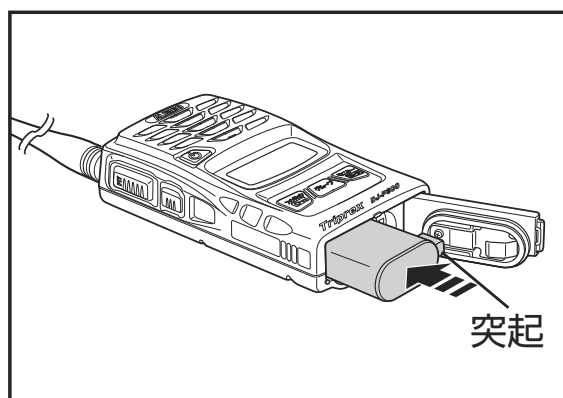
カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。

電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

■ バッテリーパックの充電方法

● AC アダプターによる充電方法

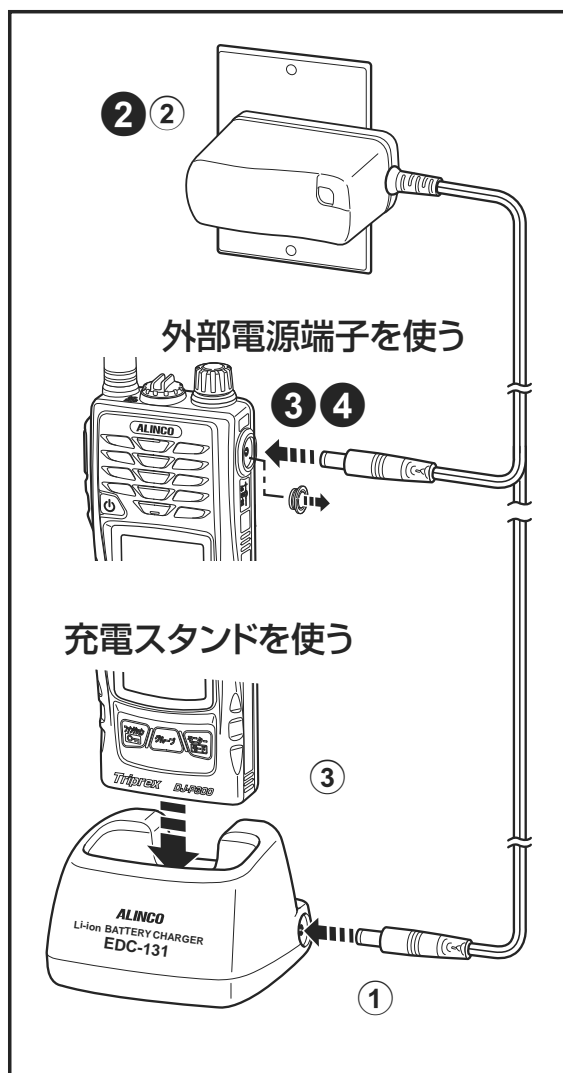
本機にはリチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）用の充電回路が内蔵されています。

1 本機にバッテリーパックを装着します

バッテリーパックの突起位置を確認して、端子が奥になるように装着してください。

❷ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します

❸ トランシーバーの電源を切ります。

❹ 外部電源端子の防水キャップを取り外し AC アダプターのプラグを接続します。
充電が開始されトランシーバーのディスプレイに「CHRGE」が表示されます。
充電が完了するとディスプレイに「FULL」が表示されます。

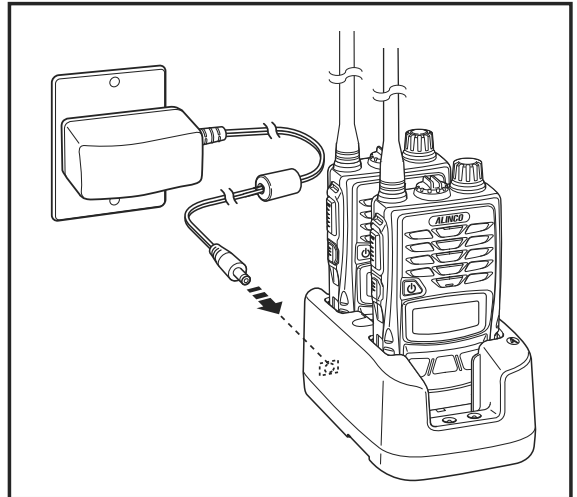
注意 トランシーバーの電源を入れたままでも充電できますが、充電中または充電完了をお知らせする表示がされません。
外部電源端子の防水キャップを取り外した場合は紛失しないようご注意ください。
外部電源を接続しているときは耐塵防浸にはなりません。

● シングル充電器セット（EDC-131A）の使用方法

① AC アダプターのプラグを充電スタンドの電源端子へ接続します。
② AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
③ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始されトランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。充電が完了するとディスプレイに「FULL」が表示されます。

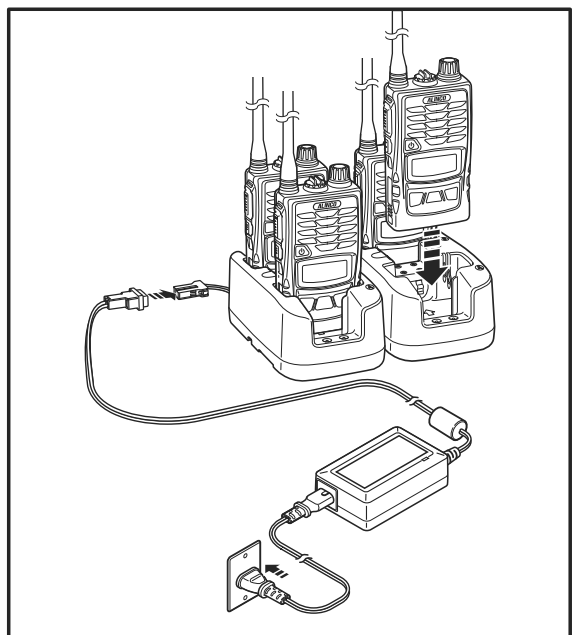
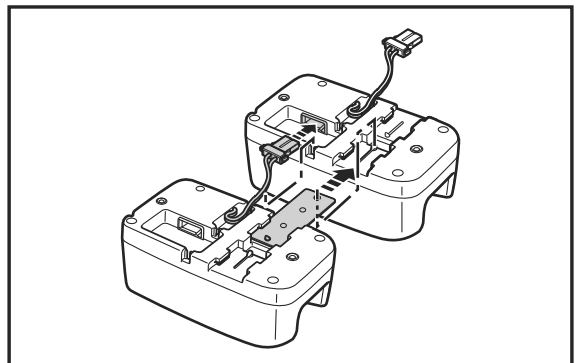
充電器セット（EDC-131A など）に付属している AC アダプターは充電専用です。
送受信音声にノイズが混入するため通話にはご使用になれません。

● ツイン充電器セット（EDC-167A）の使用方法

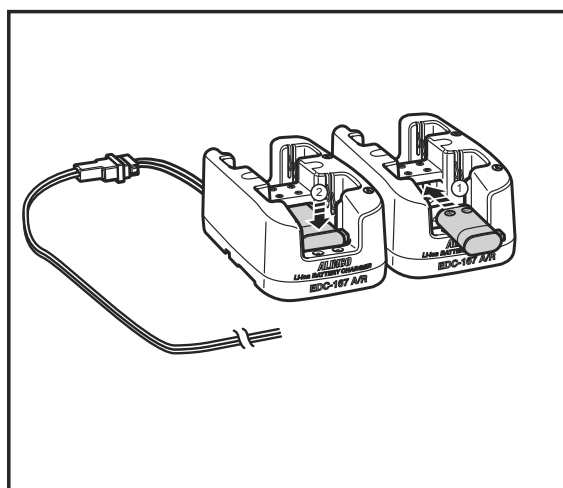
2 台のトランシーバーを同時に充電できます。

① AC アダプターのプラグを充電スタンドの電源端子へ接続します。
② AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
③ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始され充電スタンドの赤ランプが点灯するとともに、トランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。
充電が完了すると赤ランプが消灯し、トランシーバーのディスプレイに「FULL」が表示されます。

● ツイン連結スタンド（EDC-167R）の使用方法

充電スタンドを 4 台まで連結し、最大で 8 台のトランシーバーを同時に充電できます。

① 充電スタンドどうしを連結します。
充電スタンド裏面を連結プレートで接続します。
② 充電スタンド裏面のコネクタを接続します。
③ 一端の充電スタンドと連結用 AC アダプター（EDC-162）のコネクタを接続します。
④ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
⑤ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始され充電スタンドの赤ランプが点灯するとともに、トランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。
充電が完了すると赤ランプが消灯し、トランシーバーのディスプレイに「FULL」が表示されます。

● バッテリーパック単品の充電方法

ツイン充電器（EDC-167A/R）を使用してリチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）単品を充電できます。

① バッテリーパックの端子側を充電スタンドの矢印方向へスライドさせて装着します。
充電が開始されると充電スタンドの赤ランプが点灯し、完了すると消灯します。

- 空のリチウムイオンバッテリーパックを満充電するのに要する時間は約３時間です。
- 充電するときはトランシーバーの電源を切ってください。
- トランシーバーと充電器の充電端子はときどき乾いた布で掃除してください。汚れていると接触不良の原因になります。

トランシーバーやバッテリーパックをツイン充電器の前方のポケットに挿入すると赤色ランプが点灯するが後方のポケットに挿入すると点灯しない、あるいはその逆の動作をすることがあります。
充電開始、完了を決定する回路の個体差によりこのような動作をすることがありますが異常ではありません。
充電器の赤色ランプが点滅したときは AC アダプターのプラグを接続し直してください。
点滅が続く場合はバッテリーパックが寿命を迎えているため新しいものにお取り替えください。

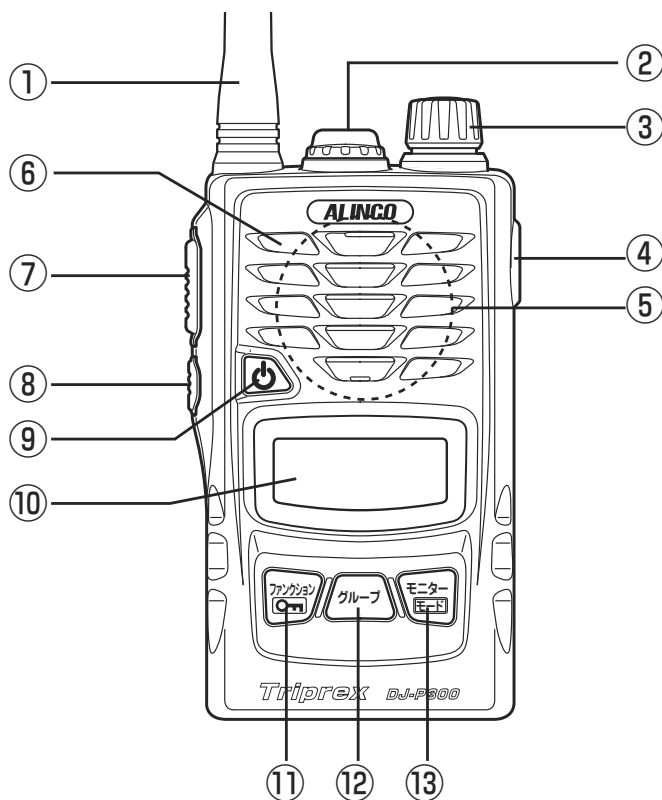
■ AC アダプターでの運用について

外部電源として AC アダプター EDC-122 を常用する場合は、過充電による劣化を防ぐためバッテリーパックは取り外しておくことをお勧めします。

AC アダプター EDC-122 で運用中に AC 電源（AC100V）が停電しその後復旧したときは、本機は自動的に停電前の状態に復帰します。

AC アダプターを使用しているとき送受信音声にノイズが混入する場合は、AC アダプターとトランシーバーを離したりコードの引き回しを変えてください。ノイズが低減することがあります。

・・・・・・・・ 各部の名前とはたらき ・・・・・・・・

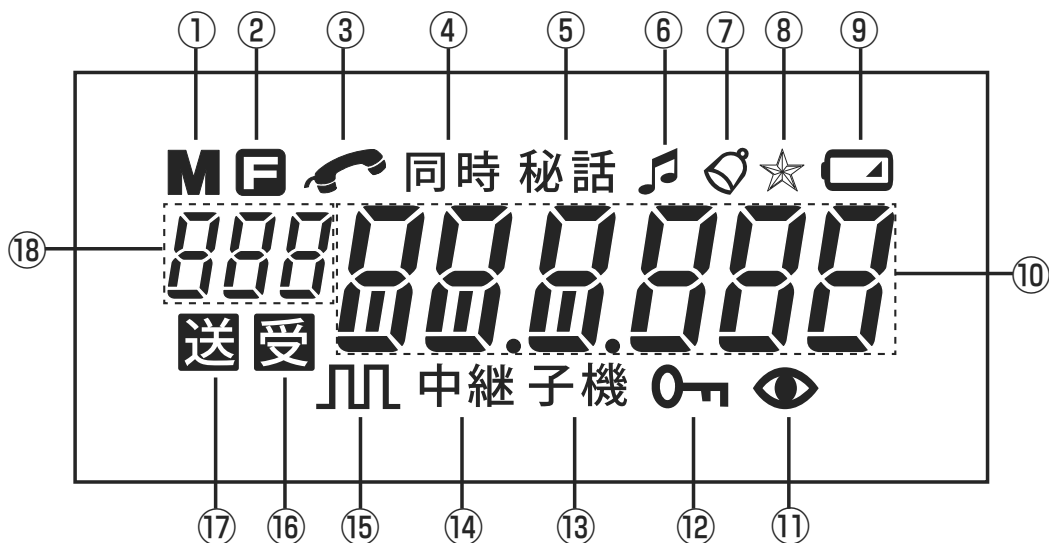
本機の各部の名前とそのはたらきを説明します。

	説　明	はたらき
①	アンテナ	アンテナは外れないようになっています。
②	イヤホン／マイク端子	オプションのイヤホンマイクなどを接続します。接続するときはプラグを奥までしっかりとねじ込んでください。 使用しないときは防水のためキャップをねじ込んでください。
③	ダイヤル	チャンネル、音量、グループ番号の選択やセットモード設定に使用します。ダイヤルを回してチャンネルを選択します。 ダイヤルを押すと音量、グループ番号の選択、 F 点灯状態でダイヤルを押すとセットモードの設定ができます。
④	DC-IN	外部電源接続端子です。オプションのACアダプターやシガーライターケーブルを接続します。オプションのバッテリーパックを装着して充電することができます。
⑤	スピーカー	受信音が鳴ります。
⑥	マイク	送信するときに話します。マイクと口もとは約5センチ離してください。
⑦	[PTT] キー	送信するときは押しながらマイクに向かって話します。

	説　明	はたらき
⑧	[フック（A/B、サーチ）] キー	同時通話電話モードで応答するときに押します。 中継モード、中継子機モード時に F 点灯状態では周波数帯（A/B）が切り替わります。
⑨	[電源 ⏻] キー	約 2 秒間押して電源を ON/OFF します。
⑩	ディスプレイ	チャンネルや音量、各種設定内容を表示します。
⑪	[ファンクション／ 🔑（ロック）] キー	通話モードの切り替えやセットモードなど各種設定の開始に使用します。約 2 秒間押し続けるとキーロックができます。
⑫	[グループ] キー	グループトーク機能に使用します。メモリーモードの呼び出し、書き込みにも使用します。
⑬	[モニター（モード）] キー	受信信号が弱く音声が途切れるときに使用します。F 点灯状態では通話モードの切り替えに使用します。約 2 秒押すとスキャンを開始します。

・・・・・・・ キー操作の表記について ・・・・・・・

本書の説明で「押します」とはキーやダイヤルを押したあとすぐに指を離すことを指します。

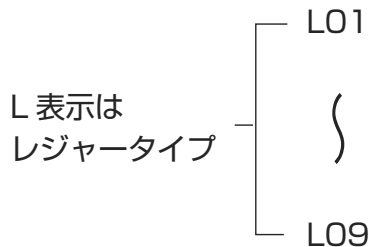
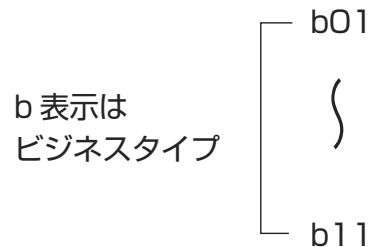
「約 2 秒間押す」「長く押す」「長押しする」とは機能が動作するまで押し続けることを指します。

ディスプレイ

	説　明
①	メモリーモード時に点灯します。
②	［ファンクション］キーを押すと点灯します。
③	電話のように使用できる同時通話時に点灯します。
④	同時通話モード時に点灯します。
⑤	秘話機能設定時に点灯します。
⑥	コンパンダー機能設定時に点灯します。
⑦	ベル機能設定時に点灯します。
⑧	使用しません
⑨	電池電圧が低下すると点灯、点滅します。
⑩	チャンネルやグループ番号、セットモード項目を表示します。
⑪	使用しません
⑫	キーロック中に点灯します。
⑬	子機として使用する各モード時に点灯します。
⑭	複信中継子機（モード４）時に点灯します。
⑮	フリーチャンネル同時通話（モード 16）のペアリング設定時に点灯します。
⑯	受信中に点灯します。
⑰	送信中に点灯します。
⑱	モード番号、周波数帯、メモリー番号を表示します。

単三形乾電池を使用しての同時通話中にディスプレイ表示が薄くなることがありますが内部回路の動作仕様であるため異常ではありません。

■ チャンネル表示について

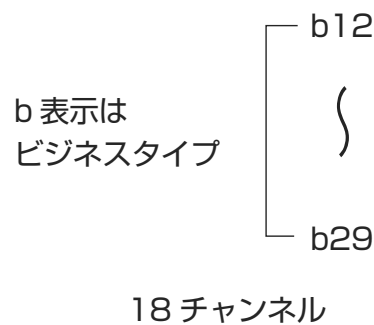
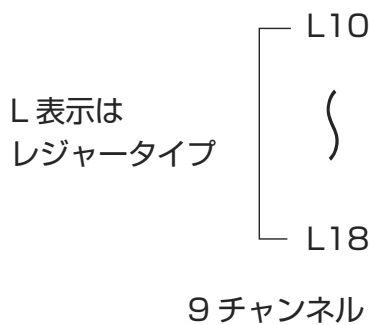
● 交互通話（単信）モード 1

レジャー、ビジネス両方の 20 チャンネルを搭載しています。

L 表示のチャンネルでは、従来のレジャータイプ（9 チャンネル機）と通話できます。

b 表示のチャンネルでは、従来のビジネスタイプ（11 チャンネル機）と通話できます。

●同時通話（複信）モード 1 以外

レジャー、ビジネス両方の 27 チャンネルを搭載しています。

9 チャンネル

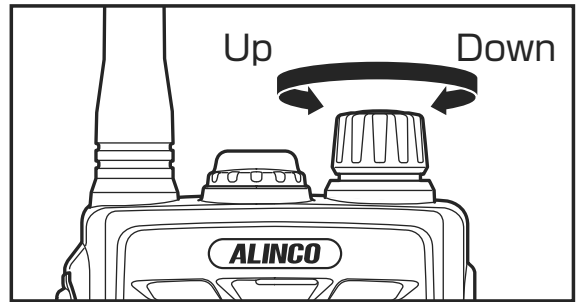
18 チャンネル

・・・・・・・・・・・・・・ 基本操作 ・・・・・・・・・・・・・・

本機の基本となる操作を説明します。

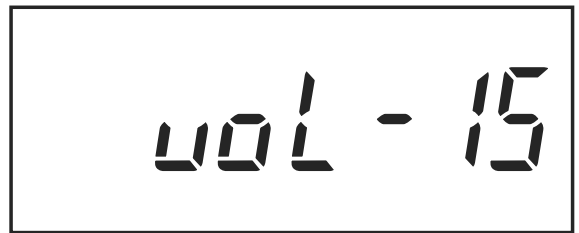
■ 電源を入れる

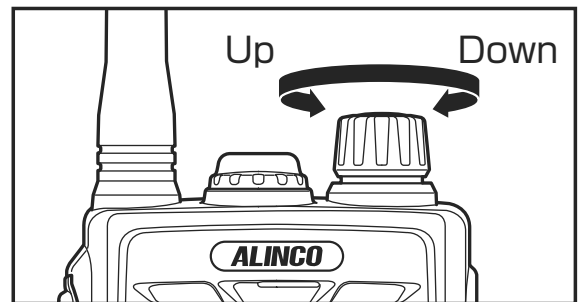
［電源 ⏻］キーを約 2 秒間押します。
電源を切るときも同じ操作をします。

■ チャンネルを設定する

ダイヤルを回して相手機と同じチャンネルに合わせます。L（レジャー）、b（ビジネス）の表示にご注意ください。

■ 音量を調整する

❶ ダイヤルを押す

ディスプレイに初期状態の音量レベル「voL-15」が表示されます。

❷ 音量レベルを調整する

音量レベルの表示中にダイヤルを回すと音量が増減できます。
音量調整は 0 ～ 30 までの 31 段階です。
[モニター] キーを押すと「ザー」というノイズが聞こえ音量調整の目安になります。

❸ 音量レベルを選択する

適切な音量レベルを選択し [PTT] キーを押して設定を完了します。
→受信待ち受けに戻ります。
各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

セットモードの CH/VOL 選択機能で、チャンネル設定と音量調整の手順を逆にすることができます。

■ 受信する

信号を受信するとディスプレイの 受 が点灯しスピーカーから相手の声が聞こえます。
適切な音量レベルに調整してください。

■ 送信する

[PTT] キーを押しながらマイクに向かって話します。

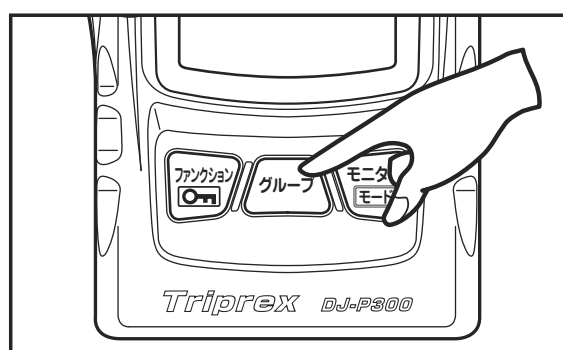
■ 設定を完了する

通話モードの切り替えや各種設定を完了するときは [PTT] キーを押してください。

■ グループトーク機能

同じグループ設定の人とだけ通話したいときは、グループトーク機能を使用します。
グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択してください。
初期状態は 01 番に設定されており一般的によく使用されています。混信を避けるため 01 番以外に設定されることをお勧めします。

❶ ［グループ］キーを押す

→グループ番号が点灯します。

❷ ダイヤルを 2 回押す

→グループ番号が点滅します。

❸ グループ番号を選択する

グループ番号が点滅中にダイヤルを回しグループ番号を選択します。

❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。
各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

通話モードの切り替え

DJ-P300 で使用できる通話モードの概要と操作方法を紹介します。

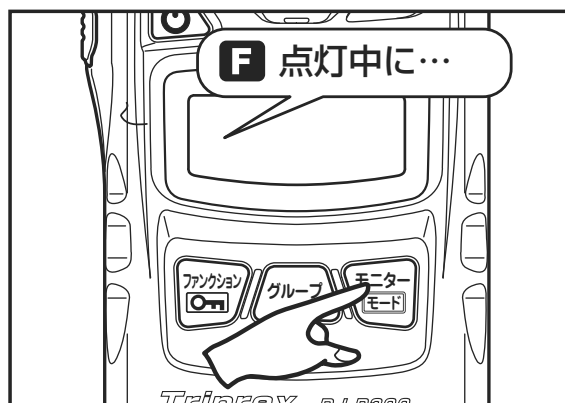
・・・・・・・・ 通話モードの切り替え ・・・・・・・・

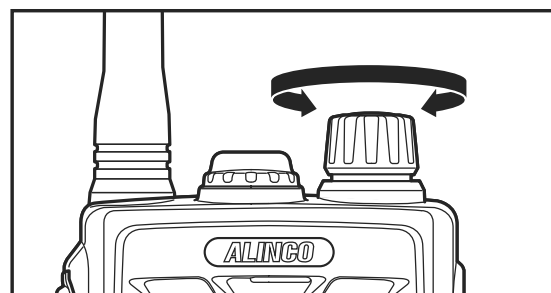
工場出荷状態ではモード０の３者同時通話に設定されています。通話モードの切り替え方法について説明します。

❶ ［ファンクション］キーを押す

→ F が点灯します。

❷ F 点灯中に［モード］キーを押す

→モード番号が点滅します。

❸ 通話モードを選択する

ダイヤルを回し通話モードを選択します。
→モード番号が変わります。

❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

・・・・・・・・・ 通話モード ・・・・・・・・・

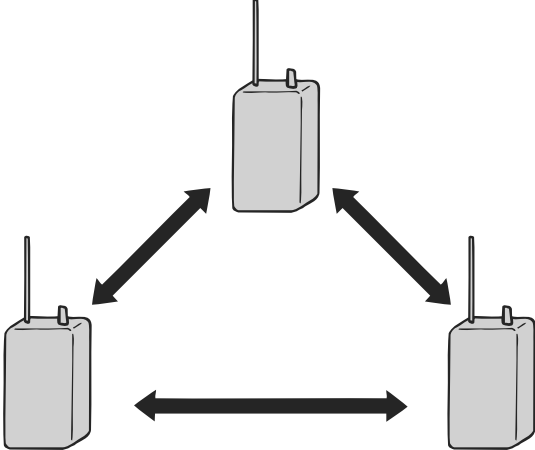
DJ-P300 に搭載されている通話モードの概要を紹介します。
ここではよく使用する通話モードについて説明します。

その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。

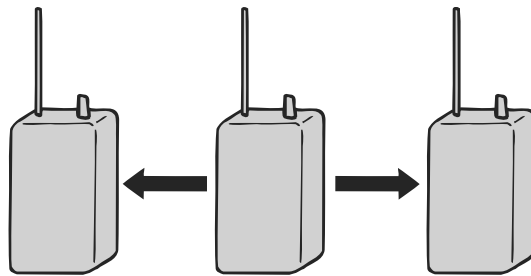
通話モード番号は弊社の従来製品と統一していますが、本機に搭載していないモードは番号が表示されません。

●モード 0：3 者同時通話

3 人で同時通話をおこなうモードです。専用の中継器などは不要です。工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。

使用チャンネルグループ：A ～ H

● モード 1：交互通話（単信）

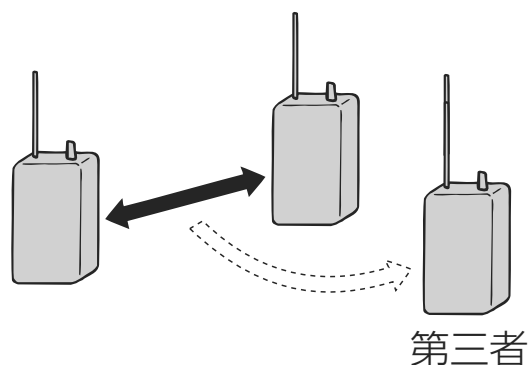
もっとも基本的な交互通話（単信）モードです。送信するときは［PTT］キーを押して通話します。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通話できます。

使用チャンネル：L01 ～ L09、b01 ～ b11

●モード 2：同時通話（複信）

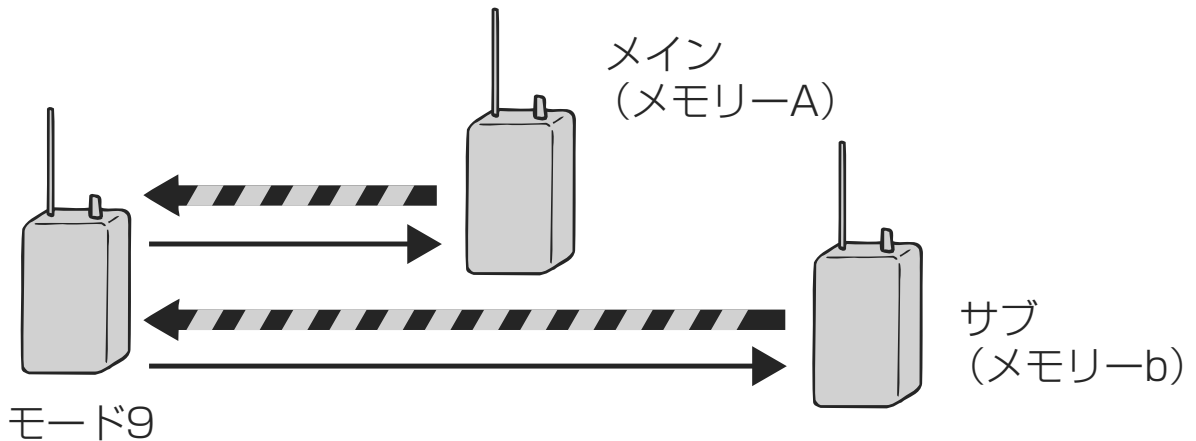
電話のように会話ができる同時通話モードです。本モードは 1 対 1 の通話ですが、ループ機能設定時には第三者も通話を聞くことができます。

使用チャンネル：L10 ～ L18、b12 ～ b29

送信するときは交互通話と同じように [PTT] キーを押して通話しますが、電話のように呼び出し応答する「電話タイプ」に切り替えることができます。

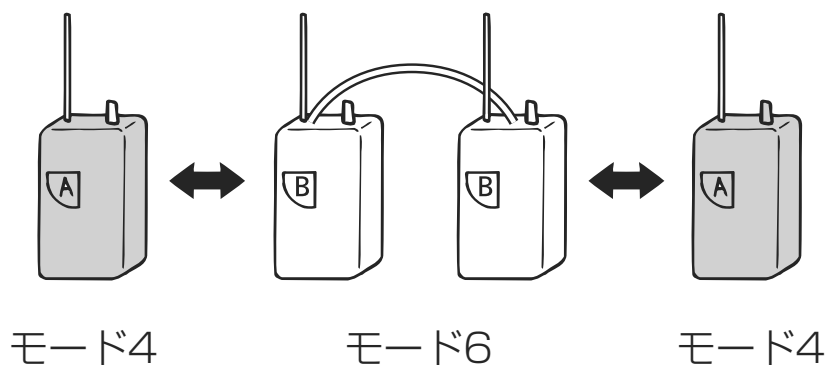
同時通話においては必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）などをご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起こるためご使用になれません。

●モード 9：デュアルオペレーション

メイン / サブの 2 つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通話できるモードです。本モードを使用するときは、あらかじめメモリーチャンネル A、b への登録が必要です。

使用チャンネル：L01 ～ L09、b01 ～ b11

その他の通話モード

その他の通話モードの概要を紹介します。
これらの機能は通話モード変更操作で選択できますが、使用方法は本書に記載していないため弊社ホームページをご覧ください。
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」

●モード 4：複信中継子機

直接では電波が届かない相手と中継器を介して同時通話をする子機モードです。中継器には DJ-R100D、DJ-R200D のモード 6 を使用します。

●モード 14：連続・交互通話（送信休止時間短縮）

●モード 15：連続・同時通話（送信休止時間短縮）

異なる 2 つのチャンネルを自動的に切り替えて連続通話時の送信休止時間を短縮するモードです。

交互通話、同時通話いずれも同様の動作をします。送信出力 Hi（10mW）設定で 3 分送信 2 秒休止の通信制限をなるべく気にせず通話したいときにお試しください。通常は同じチャンネルで連続通話すると 3 分ごとに 2 秒間送信を中断しますが、タイムアウト直前に別のチャンネルに自動的に切り替えることで通話を継続します。

切り替えるチャンネルが空いているかキャリアセンスをおこなうため 3 分ごとに約 0.5 秒間通話が中断します。

本機能の連続通話は電波法や標準規格を順守した上での疑似的なものであり、対応する弊社製の機器間でのみ有効です。

●モード 16：フリーチャンネル同時通話

自動的に空きチャンネルを探し同時通話をおこなうモードです。
事前に 2 台の子機でペアリングを完了させておけば通話時にチャンネルが自動選択されるため、使用者どうしで取り決める必要がありません。

使用チャンネル：L10 ～ L18、b12 ～ b29（自動選択）

・・・・・・・・・ 通話モード一覧 ・・・・・・・・・

よく使用する通話モードについては本書にて説明しています。
その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」

モード番号	通話方式	チャンネル	表示ディスプレイ	取扱説明
0	３者同時通話	チャンネルグループ A ～ H	同時／子機	本書
1	交互通話（単信）	L01 ～ 09 b01 ～ 11	子機	本書
2	同時通話（PTT タイプ）	L10 ～ 18 b12 ～ 29	同時 / 子機	本書
	同時通話（電話タイプ）	L10 ～ 18 b12 ～ 29	同時 / 子機 / 📞	本書
4	複信中継子機（PTT タイプ）	L10 ～ 18 b12 ～ 29	同時 / 子機 / 中継	弊社ホームページ
	複信中継子機（電話タイプ）	L10 ～ 18 b12 ～ 29	同時 / 子機 / 中継 / 📞	弊社ホームページ
9	デュアルオペレーション	メモリー A/b	メモリー内容による	本書
14	連続・交互通話	チャンネルグループ A ～ H	子機	弊社ホームページ
15	連続・同時通話	チャンネルグループ A ～ H	同時／子機	弊社ホームページ
16	フリーチャンネル同時通話	自動選択 L10 ～ 18 b12 ～ 29	同時／子機	弊社ホームページ

・・・・・・・・・ 各モードの操作方法 ・・・・・・・・・

モードごとに操作方法を説明します。ここではよく使用する通話モードについて説明します。

その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。

モード０：３者同時通話

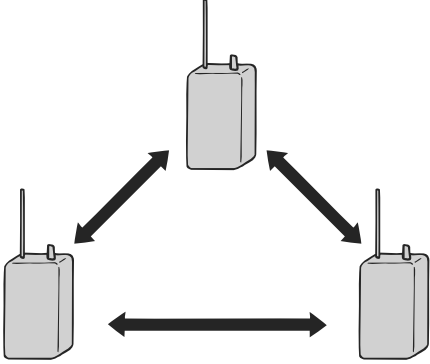
３人で同時通話をおこなうモードです。工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。

注意 ３者同時通話モードでは必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）をご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起こるためご使用になれません。

❶ 外部マイクを接続する

本機にオプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続します。

❷ 電源を入れる

[電源⏻] キーを約２秒間押します。

❸ チャンネルグループを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルグループを合わせます。A ～ H の中から選択します

❹ 音量を調整する

ダイヤルを押し、音量レベルが表示中にダイヤルを回します。適切な音量に調整してください。

❺ 呼び出す

本機に接続した外部マイクの［PTT］キーを押します。
送 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

初期状態では PTT ホールド機能は有効になり、[PTT] キーを押すたびに送信、受信待ち受けになります。
ご使用になるオプションマイクによって形状や［PTT］キーの位置は異なります。

❻ 応答する

呼び出しに応答するときは本機に接続した外部マイクの［PTT］キーを押します。
3 人で通話をおこなうときは、応答する人は会話を確認しながら一呼吸おいて［PTT］キーを押してください。同時通話が成立すると 送 受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

呼び出し、応答するときに複数人が同時に［PTT］キーを押すと動作原理上、通話が成立しません。順番に［PTT］キーを押してください。

①１人目(親機)が呼び出す→②２人目(子機 1)が応答する→③３人目(子機 2）が応答する→④３者同時通話が成立します。

[PTT] キーを押すタイミングが重なり通話に失敗したときは、一旦送信を停止して 2 秒待ってから再度 1 人目（親機）の呼び出しを開始してください。

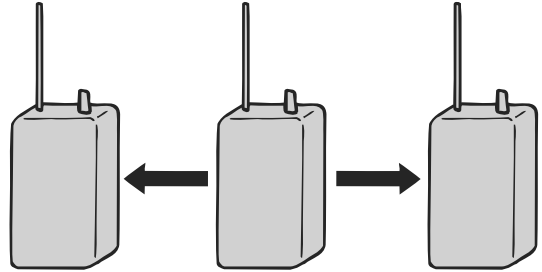
3 者同時通話モードでは初期状態でビジネス（b）チャンネル、Lo パワーに設定されており 3 分制限のない連続通話がおこなえます。

動作原理上 2 人（親機、子機 1）が至近距離にあると電波干渉により 3 人目（子機 2）の信号を受信しづらくなることがあります。それぞれ 10m 以上離れてください。
いずれか 2 者間の距離が長く受信信号が弱い場合には、3 人すべての受信音に雑音が混入することがあります。

モード 1：交互通話（単信）

もっとも基本的な交互通話（単信）モードです。

❶ 電源を入れる

[電源⏻] キーを約 2 秒間押します。

❷ モード 1 に設定する

[ファンクション] キーを押し F 点灯中に [モード] キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード 1 に設定します。[PTT] キーを押して設定を完了します。

❸ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❹ 音量を調整する

ダイヤルを押し、音量レベルが表示中にダイヤルを回します。適切な音量に調整 してください。

❺ 受信 / 送信する

● 受信する

信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。ディスプレイの 受 が点灯します。

信号が弱く相手の声が途切れる場合、[モニター] キーを押してください。スケルチが解除され聞きやすくなることがあります。スケルチとは受信信号がないときに「ザー」というノイズを消す機能です。

● 送信する

信号を受信していないことを確認してから［PTT］キーを押します。
［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
ディスプレイの 送 が点灯します。
［PTT］キーを離すと受信待ち受けに戻ります。

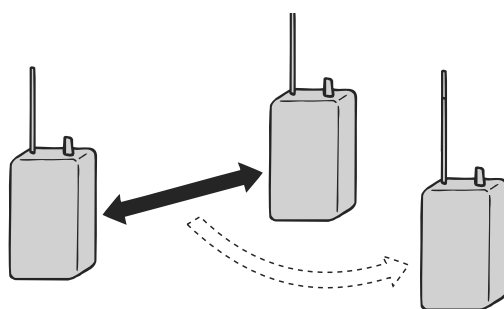
マイクと口もとは約 5 センチ離してください。

■ コールトーン機能

送信中に［ファンクション］キー、［グループ］キー、［モニター］キーのいずれかを押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。

モード 2：同時通話（複信）

電話のように会話ができる同時通話モードです。グループ全員に呼び出しをおこない、最初に応答した人と通話します。モード 2 に設定すると自動的に複信チャンネル（L10 ～ /b12 ～）に移行します。

同時通話モードでは必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）をご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起こるためご使用になれません。

モード 2 には「PTT タイプ」と「電話タイプ」があります。
初期状態では「PTT タイプ」が選択されています。

従来製品では「PTT タイプ」のことを「強制タイプ」と称している場合がありますが同じ機能です。

■ PTT タイプ

交互通話のようにお互いの [PTT] キーを押して送信する通話方式です。

❶ 外部マイクを接続する

本機にオプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続します。

❷ モード2に設定する

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード 2 に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。

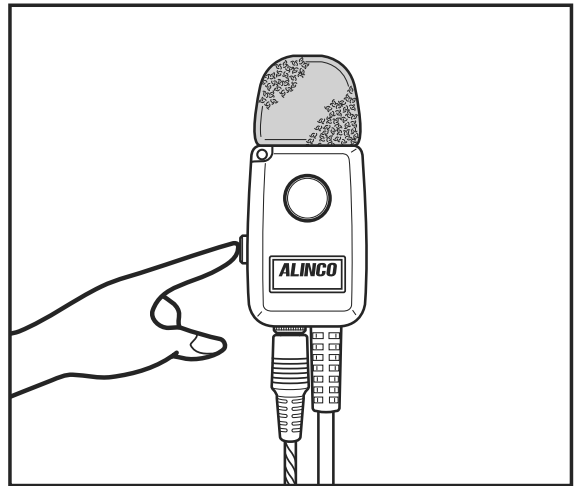
メモ　モード 2 に設定すると自動的にグループトーク機能が ON になりグループ番号が表示されます。グループトーク機能を解除することはできません。

❸ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

メモ　同時通話でチャンネル b12 ～ b29 を選択すると自動的に送信出力は Lo パワー 1mW になり 3 分制限のない連続送信がおこなえます。1mW 設定時にはチャンネル表示部に「.（ドット)」が点灯します。
チャンネル L10 ～ L18 は 1mW に設定しても連続送信はできません。

❹ グループ番号を合わせる

ダイヤルを２回押すとグループ番号が点滅します。
点滅中にダイヤルを回してグループ番号を設定します。
［PTT］キーを押して設定を完了します。

❺ 呼び出す

本機に接続した外部マイクの [PTT] キーを押します。
送 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

ご使用になるオプションマイクによって形状や［PTT］キーの位置は異なります。

❻ 応答する

呼び出しに応答するときは本機に接続した外部マイクの [PTT] キーを押します。
同時通話が成立すると 送 受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

❼ 通話を終了する

通話を終了するときは外部マイクの [PTT] キーを押します。
送信が停止し 送 が消灯します。

モード 2 の同時通話においてセットモードの PTT ホールド機能を初期状態の At（AUTO）に設定しておくと自動的に PTT ホールド機能は有効になります。PTT ホールド機能とは［PTT］キーを押し続けなくても送信を保持する機能です。［PTT］キーを押すたびに送信、受信待ち受けになります。

■ ループ機能

セットモードのループ機能を ON にすると通話している 2 人以外の第三者が会話を聞くことができます。送信するトランシーバーすべてのループ機能を ON にしてください。

■ 電話タイプ

電話のように呼び出し／応答の手順で通話をおこないます。

❶ 外部マイクを接続する

本機にオプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続します。

❷ 通話タイプを切り替える

[ファンクション] キーを押し F 点灯中に [フック] キーを約 2 秒間押します。 が点灯し「電話タイプ」に切り替わります。

❸ チャンネルとグループを合わせる

❹ 呼び出す

本体の［PTT］キーまたは外部マイクの［PTT］キーを押します。
→ 10 秒間呼び出し音が鳴ります。相手からの応答を待ちます。

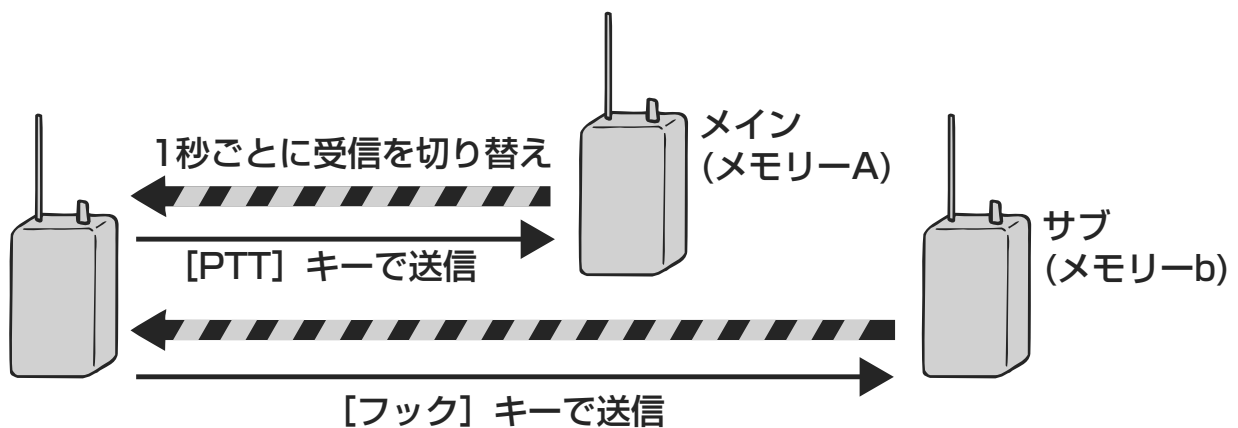
❺ 応答する

相手から呼ばれたときは 10 秒間呼び出し音が鳴ります。呼び出し音が鳴っている間に本体の［PTT］または［フック］キー、または外部マイクの［PTT］キーを押します。
→同時通話が成立して 送 受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

❻ 通話を終了する

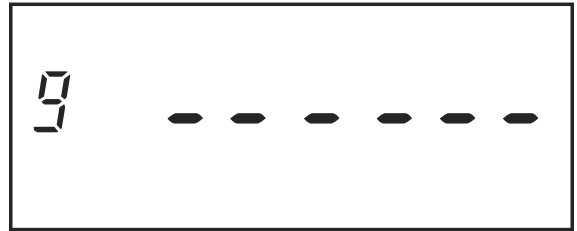
通話を終了するには本体の［PTT］キーまたは［フック］キー、または外部マイクの[PTT]キーを押します。

モード 9：デュアルオペレーション

メイン / サブの 2 つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通話できるモードです。
本モードを使用するときは、P.40 を参照してあらかじめメモリーチャンネル A、b への登録が必要です。
登録できるモードはモード 1 交互通話です。

❶ メモリー番号 A/b を登録する

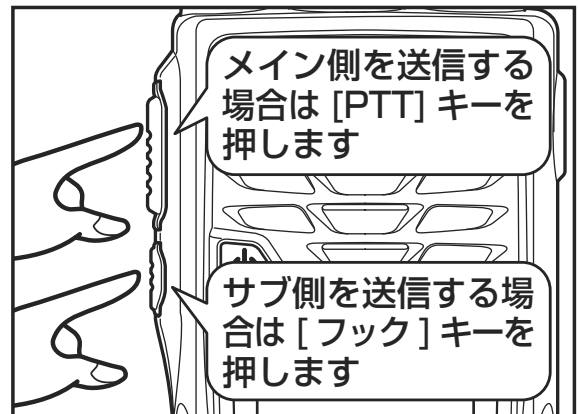
事前に P.40 を参照して、メインに設定する内容を「メモリー番号 A」に、サブに設定する内容を「メモリー番号 b」に登録します。

❷ モード９に設定する

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード９に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。
→「dUAL」と表示されたあと「メモリー番号 A」をメインに､「メモリー番号 b」をサブとして 1 秒ごとの交互受信待ち受けを開始します。

上記のディスプレイ表示はメモリー A、b に何も登録していないときのものです。
正しく登録されていれば 1 秒ごとにチャンネル表示が切り替わります。

❸ 送信 / 受信する

●送信する

メイン側を送信するときは［PTT］キーを、サブ側を送信するときは［フック］キーを押します。
送信を終了すると 1 秒ごとの交互受信待ち受けを再開します。

オプションの外部マイクをご使用の場合は [PTT] キーを一度押しでメイン側を送信、二度押しでサブ側を送信します。

●受信する

メイン側を受信すると「mAin」と表示され、「ピッ」音が鳴ります。
サブ側を受信すると「SUb」と表示され、「ピピ」音が鳴ります。

デュアルオペレーション動作中はバッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。

3 便利な機能

本機を使用する際に便利な機能を紹介します。

・・・・・・・・ グループトーク ・・・・・・・・

同じグループ設定の人とだけ通話したいときはグループトーク機能を使用します。同じグループのトランシーバーはすべて同じグループ番号に設定してください。グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択してください。

本機能は第三者による傍受を防ぐものではないため、グループトーク機能のない同じチャンネルのトランシーバーには話し声が聞こえます。
他のトランシーバーとグループトーク通話したときに信号検出精度が異なるため受信音声が途切れる場合があります。このようなときは違うグループ番号に設定して通話をお試しください。

初期状態は 01 番に設定されており一般的によく使用されています。混信を避けるため 01 番以外に設定されることをお勧めします。

❶ [グループ] キーを押す

→グループ番号が点灯します。

❷ ダイヤルを 2 回押す

→グループ番号が点滅します。

❸ グループ番号を選択する

グループ番号が点滅中にダイヤルを回しグループ番号を選択します。

❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。
各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

グループトーク機能を解除するときも [グループ] キーを押します。
→グループ番号が消灯します。

キーロック

キーロックしておくと誤操作を防止できます。

■ 簡易キーロック（LoC-1）

キーを約 2 秒間押します。
→ 「LoC-1」が点滅したあと「」が点灯します。
解除するには同じ操作をします。

■ 通常キーロック（LoC-2）

キーと [グループ] キーを同時に約 2 秒間押します。
→ 「LoC-2」が点滅したあと「」が点灯します。
解除するには同じ操作をします。

キーロックしていても送信、音量調整、モニター操作はおこなえます。
セットモードのキーロック設定で、キーの押し時間を変更することができます。

減電池お知らせ

電池の電圧が低下すると「」が点灯します。さらに低下すると「」が点滅します。
乾電池をご使用の場合は新しいものに交換してください。オプションのバッテリーパックをご使用の場合は充電してください。

本機の電源を切った状態で充電すると「CHArGE」を表示し「」が点滅します。満充電になると「FULL」を表示し「」が消灯します。
本機の電源を入れた状態で充電したときはチャンネルなどを表示しますが「」は点灯、点滅しません。バッテリーパックの電圧を検知して自動的に充電を開始しその後完了します。

・・・・・・・・ メモリーモード ・・・・・・・・

あらかじめ登録しておいたチャンネルを呼び出して運用するモードです。登録できる数は、0～9、A、b の 12 個です。
A､b に登録した内容はモード 9 デュアルオペレーションで使用します。

■ メモリー登録

❶ 状態を設定する

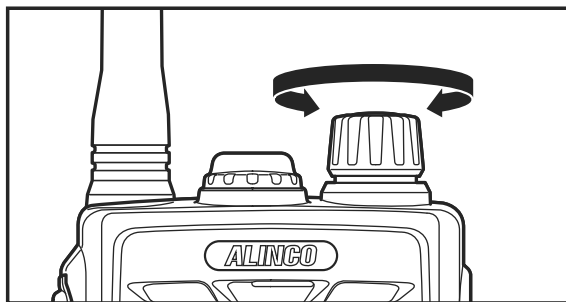
登録したい状態にモード、チャンネル、グループトークなどを設定します。

❷ [ファンクション] キーを押す

→ M とメモリー番号が点滅します。

既に登録済みのメモリーチャンネルは番号が点灯します。

❸ メモリー番号を選択する

ダイヤルを回し登録したいメモリー番号（0～9、A、b）を選択します。

❹ 登録する

[グループ] キーを約 2 秒間押します。
→「writE」が表示されメモリーに設定した内容が登録されます。

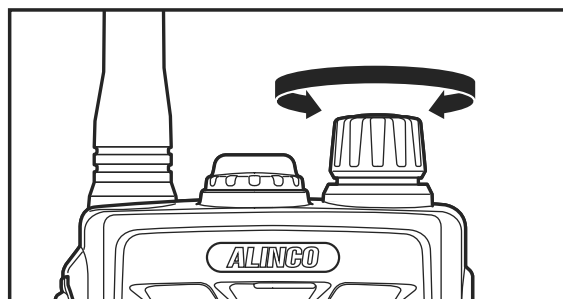
■ メモリー呼び出し

❶ メモリーモードへ切り替える

[グループ]キーを約2秒間押します。
→Mとメモリー番号が点灯しメモリーモードに切り替わります。

❷ メモリー番号を選択する

ダイヤルを回し使用するメモリー番号を選択します。

通常の通話モードへ戻すには再度[グループ]キーを約2秒間押します。
→Mとメモリー番号が消灯します。

メモ

メモリーモード時に登録された通話モードを確認するには[グループ]キーを押します。
またセットモードのメモリー表示機能でメモリー番号と通話モードのどちらを優先して表示させるかを選択することができます。

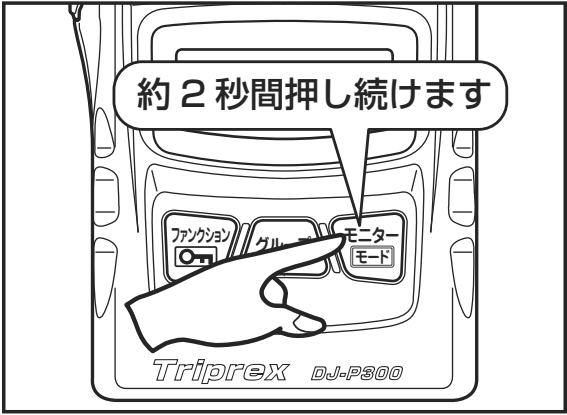
■ メモリー消去

登録されたすべてのメモリー内容を一括して消去するには完全リセット操作をおこなってください。特定のメモリー内容を消去するには、メモリー登録操作で該当のメモリー番号を選択して点灯させ[モニター]キーを約2秒間押します。「ErASE」が点灯します。
メモリー内容はメモリー登録操作で上書きすることにより変更できます。

・・・・・・・・スキャン・・・・・・・・

自動的に受信チャンネルを切り替えて信号を探す機能です。
信号を見つけるとスキャンが止まり、信号がなくなると再開します。
モード 1 交互通話で使用できます。

❶ スキャンを開始する

[モニター]キーを約2秒間押します。
自動的にチャンネルが切り替わり信号を探します。

❷ スキャンを停止する

[モニター] キーを約 2 秒間押すか [PTT] キーを押します。

スキャン動作中はバッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。

メモリーモードにして同じ操作をすると、登録されたメモリーチャンネルだけをスキャンします。

‥‥‥ イヤホン断線検知 ‥‥‥

オプションのイヤホンマイクなどを接続して電源を入れた時に、イヤホンが断線していないか自動で検知をおこないます。
もし断線していれば異常であることをディスプレイ表示「EAr-nG」と音声ガイダンスでお知らせします。

‥‥‥ テールノイズキャンセラー ‥‥‥

受信終了時の「ザッ」というノイズを低減する機能です。
本機能を搭載した弊社機器間の通話においてのみ有効です。

・・・・・・・・リセット・・・・・・・・

設定を初期化するときはリセットします。リセットには 2 つの方法があります。
　簡易リセット：設定状態がわからなくなったときに初期化します。
　完全リセット：工場出荷状態に戻ります。

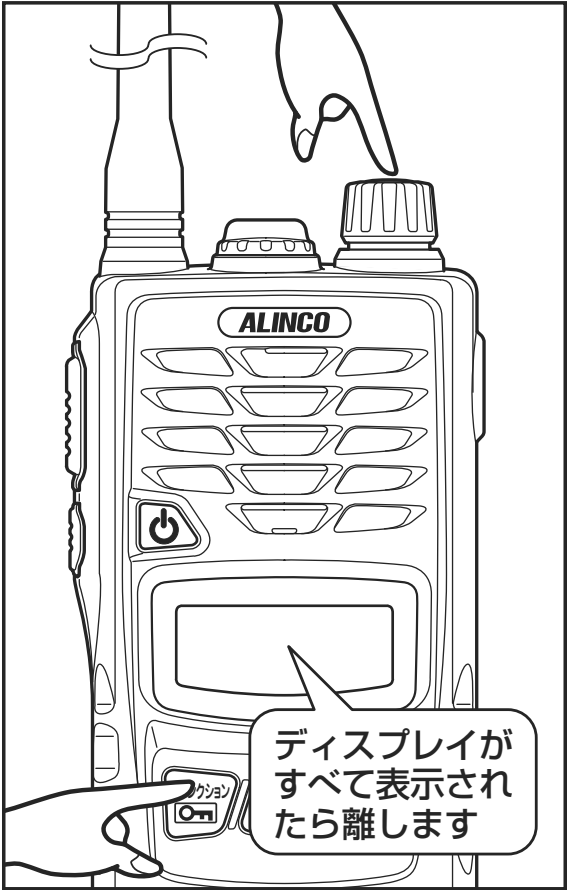
■ 簡易リセット

[ファンクション] キーを押しながら電源を入れます。
→ ディスプレイが全点灯中にキーを離します。

簡易リセットでは登録済みメモリーは保存されます。標準セットモードの設定内容は初期化されますが、上級セットモードの設定内容は保存されます。

■ 完全リセット

[ファンクション] キーとダイヤルを押しながら電源を入れます。
→ ディスプレイが全点灯中にキーを離します。

完全リセットでは登録済みメモリーは消去されます。標準セットモードおよび上級セットモードのすべての設定内容は初期化されます。

4 セットモード

各種機能を用途に合わせてカスタマイズすることができます。
本書ではよく使用する標準セットモードについて説明します。
本書に記載していないその他の標準セットモードおよび上級セットモードについては弊社ホームページをご覧ください。

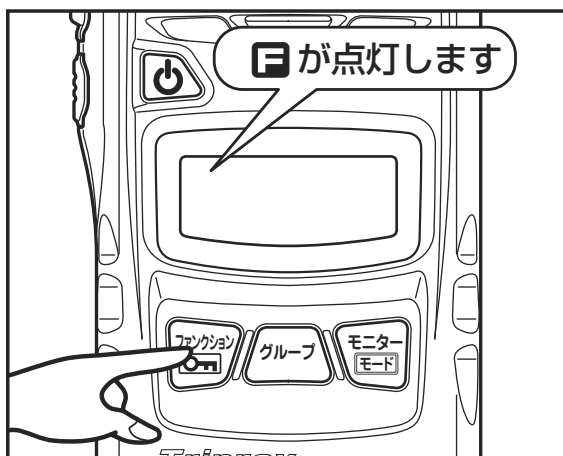
・・・・・・・・・ セットモード一覧 ・・・・・・・・・

	カスタマイズ項目	初期値	参照ページ
1	CH ／ VOL リバース	CH	P.47
2	コンパンダー	ON	P.48
3	秘話	OFF	P.48
4	ループ（第三者受信）	OFF	P.49
5	ベル	OFF	P.49
6	バッテリーセーブ	ON1	P.50
7	オートパワーオフ	OFF	P.50
8	ランプ	5（秒）	P.51
9	PTT ホールド	At	P.51
10	送信出力	At	P.52
11	VOX	OFF	P.52
12	操作音量	3	P.53
13	サウンド	bP	P.53
14	エンドピー	OFF	P.54
15	コールバック	OFF	P.54
16	ディスプレイ表示	modE	弊社ホームページ
17	スケルチレベル	3	弊社ホームページ
18	キーロック時間	2（秒）	弊社ホームページ
19	メモリー表示	Number	弊社ホームページ
20	音色変更	1	弊社ホームページ
21	電池電圧参照	-	弊社ホームページ
22	LCD 消灯	ON	弊社ホームページ
23	外部音量変更	H	弊社ホームページ
24	イヤホン断線検知	ON	弊社ホームページ

16 ～ 24 の設定方法は本書に記載しておりません。弊社ホームページをご覧ください。
セットモードの設定内容は簡易リセットすると初期化されます。

・・・・・・ セットモードの設定方法 ・・・・・・

❶ セットモードにする

[ファンクション] キーを押します。
→ F が点灯します。

❷ ダイヤルを押す

F 点灯中にダイヤルを押します。
→ セットモードの項目が表示されます。
ダイヤルを押すごとに項目が切り替わります。[フック] キーを押すと前項目に戻ります。

❸ 設定値を変更する

ダイヤルを回して ON ／ OFF を設定したり値を選択します。

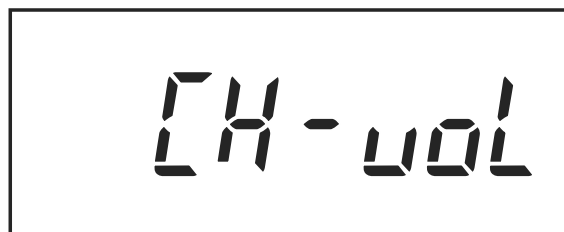
❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。

······CH/VOL リバース ······

ダイヤルを回したときにチャンネル変更と音量調整のどちらの操作をするかを選択できます。
初期状態ではチャンネル変更するように設定されています。

❶ CH/voL の設定をする

セットモードにして「CH-voL」を選択します。

❷ CH/voL を切り替える

ダイヤルを回して「CH-voL」または「voL-CH」を選択します。
→「voL-CH」を選択するとダイヤルを回した時に音量調整ができます。

「CH-voL」が選択されていてもキーロック中にダイヤルを回すと音量調整になります。

•••••• コンパンダー ••••••

受信中の「サー」というバックノイズを低減する機能です。
初期状態では OFF に設定されています。

❶ コンパンダーの設定をする

セットモードにして「ComPnd」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。
→ ON にすると「♬」が点灯します。

コンパンダー機能のないトランシーバーとも通話できますがバックノイズが増え音声が聞き取りにくくなることがあります。そのようなときは本機能を OFF に設定してください。

•••••• 秘話 ••••••

秘話（スクランブルトーク）を設定すると他のグループの人には会話の内容が聞き取れなくなります。

❶ 秘話の設定をする

セットモードにして「ScrbLE」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON ／ OFF を設定します。
→ ON にすると「秘話」が点灯します。

同じ方式の秘話機能を持った弊社製トランシーバーと通話できます。
一部の従来製品とはキャリア周波数が異なるため、受信音声が聞き取りにくいことがあります。

同じ方式の秘話機能を持ったトランシーバーでは会話が聞き取れるため、盗聴や傍受を防ぐ機能ではありません。

・・・・・・ループ（第三者受信）・・・・・・

モード 2、モード 4 の同時通話で第三者が会話を聞くことができる機能です。初期状態では OFF に設定されています。

❶ ループの設定をする

セットモードにして「AFLooP」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

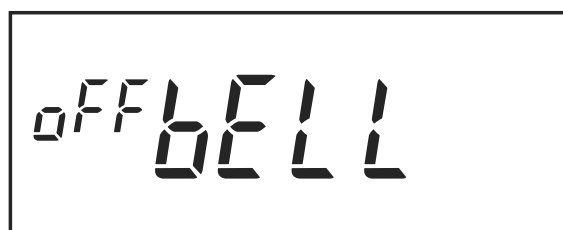
ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

本機能は会話を聞く第三者（受信者）ではなく送信者のトランシーバーに設定してください。
モード 2 で使用するときは最初に呼び出しをおこなうトランシーバーに設定します。両方のトランシーバーに設定しても問題ありません。
モード 4 で使用するときは片方のトランシーバーにのみ設定してください。両方のトランシーバーに設定すると原理上ハウリングが発生します。

・・・・・・・・・・・・・ベル・・・・・・・・・・・・・

呼び出されたことを表示とベル音でお知らせします。初期状態では OFF に設定されています。

❶ ベルの設定をする

セットモードにして「bELL」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

一定時間通話が途切れたあとに受信したとき 10 秒間ベルが作動します。

・・・・・・バッテリーセーブ・・・・・・

待ち受け状態が 5 秒以上続くと内部電源を定期的に ON/OFF させて電池の消費を抑える機能です。初期状態では ON1 に設定されています。

❶ バッテリーセーブの設定をする

セットモードにして「bS」を選択します。

❷ ON ／ OFF、セーブモードを設定する

ダイヤルを回して ON ／ OFF やセーブモードを設定します。
OFF、ON1、ON2（ロング BS）、ECO（エコ BS）から選択します。
ロング BS は低消費モード、エコ BS はさらに低消費モードです。
→ バッテリーセーブ機能を OFF に設定するとチャンネル表示部に「.（ドット)」が点灯します。

ロング BS とエコ BS では受信音声が出力される際に頭切れを起こすことがあります。
本機能を OFF にすると受信音声出力の反応はよくなりますが、電池の消耗が早くなります。

・・・・・・オートパワーオフ・・・・・・

電源の切り忘れを防ぐ機能です。無操作状態が設定時間続くとビープ音でお知らせし自動的に電源が切れます。初期状態では OFF に設定されています。

❶ オートパワーオフの設定をする

セットモードにして「APO」を選択します。

❷ 時間を設定する

ダイヤルを回して電源が切れるまでの時間を設定します。
OFF、30 分、60 分、90 分、120 分から選択します。

・・・・・・ランプ・・・・・・

ディスプレイ照明を設定する機能です。初期状態では５秒に設定されておりキー操作をすると５秒間照明が点灯します。

❶ ランプの設定をする

セットモードにして「LAmP」を選択します。

❷ 照明の点灯時間を設定する

ダイヤルを回して照明の点灯時間を設定します。
OFF、５秒、ON（常時点灯）から選択します。

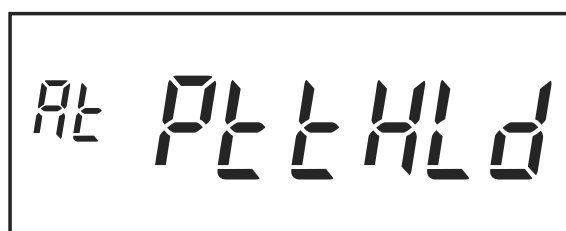
ディスプレイ照明を常時点灯させせると電池の消耗が早くなります。

・・・・・・PTT ホールド・・・・・・

[PTT] キーを一度押すと送信を継続する機能です。もう一度押すと受信待ち受けに戻ります。
本機能を使用すると [PTT] キーを押し続ける必要がなくなります。
初期状態では AUTO に設定されています。

モード１交互通話では OFF、モード２同時通話 PTT タイプでは ON に設定されています。

❶ PTT ホールドの設定をする

セットモードにして「PttHLd」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して At（AUTO）、ON、OFF から選択します。

・・・・・・送信出力・・・・・・

送信出力を変更する機能です。初期状態では AUTO に設定されています。
モード 2 などの同時通話ビジネスチャンネル（b12 ～ b29）選択時には自動的に Lo パワー（1mW）になり、3 分制限のない連続通話ができます。その他の通話モードでは Hi パワー（10mW）に設定されています。

❶ 送信出力の設定をする

セットモードにして「Pow」を選択します。

❷ 送信出力を切り替える

ダイヤルを回して送信出力を At、Hi、Lo から選択します。
Lo 設定時にはチャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

Hi（10mW）に設定すると交互通話、同時通話におけるすべてのチャンネルの通話時間は 3 分間に制限されます。

・・・・・・VOX・・・・・・

[PTT] キーを押さなくてもマイクに音声入力があると自動的に送信する機能です。初期状態では OFF に設定されています。

❶ VOX の設定をする

セットモードにして「vo」を選択します。

❷ VOX 感度を設定する。

ダイヤルを回して VOX 感度を OFF、Lo、Hi から選択します。
本機能を設定するとチャンネル表示の左横に「v」が点灯します。

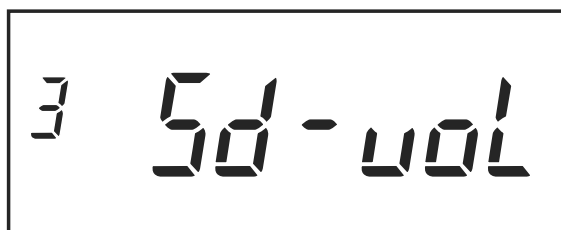
オプションのイヤホンマイクやヘッドセットでも VOX 運用ができます。

・・・・・・ 操作音量 ・・・・・・

本機から鳴るビープやガイダンスの音量を調整する機能です。初期状態では「3」に設定されています。

❶ 操作音量の設定をする

セットモードにして「Sd-voL」を選択します。

3 Sd-voL

❷ 音量を切り替える

ダイヤルを回して操作音量を０～５から選択します。数値が大きいほど音量は大きくなり「0」に設定するとすべてのビープやガイダンスは鳴らなくなります。

・・・・・・ サウンド ・・・・・・

サウンドを設定する機能です。初期状態ではビープに設定されています。

❶ サウンドの設定をする

セットモードにして「Sound」を選択します。

❷ 音を選択する

ダイヤルを回して音を OFF、bP（ビープ）、GdC（ガイダンス）、ALL（ビープ+ガイダンス）から選択します。

メモ　GdC（ガイダンス）または ALL（ビープ+ガイダンス）を選択した場合、設定内容や状態を音声でお知らせします。

・・・・・・ エンドピー ・・・・・・

[PTT] キーを離したときに「ピッ」音が鳴り送信が終わったことを相手にお知らせする機能です。初期状態では OFF に設定されています。

❶ エンドピーの設定をする

セットモードにして「EndP」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

・・・・・・ コールバック ・・・・・・

自分が話した声をイヤホンから鳴らし話しやすくする機能です。
周りの騒音が大きいときに自分の声が聞こえることによって話しやすくなります。初期状態では OFF に設定されています。

❶ コールバックの設定をする

セットモードにして「CALLb」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

5 付　録

本機の補足事項を記載しています。

‥‥ 各チャンネルの送受信周波数 ‥‥

■ レジャーチャンネル

L01	422.2000MHz
L02	422.2125MHz
L03	422.2250MHz
L04	422.2375MHz
L05	422.2500MHz
L06	422.2625MHz
L07	422.2750MHz
L08	422.2875MHz
L09	422.3000MHz

	B	A
L10	421.8125MHz	440.2625MHz
L11	421.8250MHz	440.2750MHz
L12	421.8375MHz	440.2875MHz
L13	421.8500MHz	440.3000MHz
L14	421.8625MHz	440.3125MHz
L15	421.8750MHz	440.3250MHz
L16	421.8875MHz	440.3375MHz
L17	421.9000MHz	440.3500MHz
L18	421.9125MHz	440.3625MHz

メモ　複信、半複信モードでの周波数帯について…
A選択時:440MHz側を送信します。
B選択時:421MHz側を送信します。

■ ビジネスチャンネル

b01	422.0500MHz
b02	422.0625MHz
b03	422.0750MHz
b04	422.0875MHz
b05	422.1000MHz
b06	422.1125MHz
b07	422.1250MHz
b08	422.1375MHz
b09	422.1500MHz
b10	422.1625MHz
b11	422.1750MHz

	B	A
b12	421.5750MHz	440.0250MHz
b13	421.5875MHz	440.0375MHz
b14	421.6000MHz	440.0500MHz
b15	421.6125MHz	440.0625MHz
b16	421.6250MHz	440.0750MHz
b17	421.6375MHz	440.0875MHz
b18	421.6500MHz	440.1000MHz
b19	421.6625MHz	440.1125MHz
b20	421.6750MHz	440.1250MHz
b21	421.6875MHz	440.1375MHz
b22	421.7000MHz	440.1500MHz
b23	421.7125MHz	440.1625MHz
b24	421.7250MHz	440.1750MHz
b25	421.7375MHz	440.1875MHz
b26	421.7500MHz	440.2000MHz
b27	421.7625MHz	440.2125MHz
b28	421.7750MHz	440.2250MHz
b29	421.7875MHz	440.2375MHz

・・・トーン周波数一覧（グループ番号）・・・

番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数
01	67.0Hz	16	114.8Hz	31	192.8Hz	46	196.6Hz
02	71.9Hz	17	118.8Hz	32	203.5Hz	47	199.5Hz
03	74.4Hz	18	123.0Hz	33	210.7Hz	48	206.5Hz
04	77.0Hz	19	127.3Hz	34	218.1Hz	49	229.1Hz
05	79.7Hz	20	131.8Hz	35	225.7Hz	50	254.1Hz
06	82.5Hz	21	136.5Hz	36	233.6Hz		
07	85.4Hz	22	141.3Hz	37	241.8Hz		
08	88.5Hz	23	146.2Hz	38	250.3Hz		
09	91.5Hz	24	151.4Hz	39	69.3Hz		
10	94.8Hz	25	156.7Hz	40	159.8Hz		
11	97.4Hz	26	162.2Hz	41	165.5Hz		
12	100.0Hz	27	167.9Hz	42	171.3Hz		
13	103.5Hz	28	173.8Hz	43	177.3Hz		
14	107.2Hz	29	179.9Hz	44	183.5Hz		
15	110.9Hz	30	186.2Hz	45	189.9Hz		

・・・・・・・・・・・オプション一覧・・・・・・・・・・・

EBP-60	リチウムイオンバッテリーパック
EDC-122	AC アダプター
EDC-131	シングル充電スタンド
EDC-131A	シングル充電器セット（AC アダプター付属）
EDC-167A	ツイン充電器セット（AC アダプター付属）
EDC-167R	ツイン連結スタンド
EDC-162	連結用 AC アダプター
EME-58	ストレートコードイヤホン　耳かけ型
EME-32A	イヤホンマイク　カナル型
EME-48A	イヤホンマイク　耳かけ型
EME-62A	咽喉イヤホンマイク　カナル型
EME-63A	ヘルメット用ヘッドセット
EME-64A	ヘッドセット
EME-36A	イヤホンマイク　カナル型
EME-59A	イヤホンマイク　耳かけ型
EME-65A	イヤホンマイク　耳かけ型
EMS-62	スピーカーマイク　IP54 相当※
EMS-71	スピーカーマイク　IP67 相当※
EDH-33	シガーケーブル
EDS-14	プラグ変換ケーブル
ESC-62	ソフトケース
EBC-43	ベルトクリップ（ネジ 2 本）

※スピーカーマイクは同時通話の各モードではハウリングが発生するためご使用になれません。交互通話において PTT ホールド、VOX、コールバックの各機能はご使用になれません。

・・・・・・故障とお考えになる前に・・・・・・

本機が故障かなと思ったら、まずこちらをお読みください。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。	電池の入れ方が間違っている。	電池を正しく入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。 充電池を充電してください。
音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定してください。
	相手とチャンネルが違う。	同じチャンネルに合わせてください。
	相手と距離が離れ過ぎている。	通信距離を目安に通信してください。
	グループ番号が違う。	グループ番号を合わせてください。
	[PTT]キーが押されている。	[PTT]キーを離してください。
「ザー」という 雑音が出る。	スケルチレベルが低すぎる。	適切なスケルチレベルに設定してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなってから送信するか、チャンネルを変更してください。
	通信制限時間を超過している。	[PTT]キーを離し 2 秒たってから送信してください。
電池の消耗が早い。	バッテリーセーブ機能が OFF になっている。	セットモードでバッテリーセーブ機能を ON にしてください。
	ランプ常灯機能が ON になっている。	セットモードでランプ常灯機能を OFF にするか、5 秒に設定してください。
キー操作できない。 チャンネルが変わらない。	キーロックされている。	キーロックを解除してください。
充電しない。	充電端子が汚れている。	充電端子の汚れを拭き取ってください。
	バッテリーが専用品でない。	バッテリーパック EBP-60 をご使用ください。

- 処置を施しても異常が続くときはリセット（初期化）してください。症状が回復する場合があります。
- キー操作を受け付けなくなったときは電池を入れ直すと症状が回復する場合があります。
- 電池が消耗していると、まれに誤動作することがあります。新しい電池に交換してください。

生産終了品に対する保守年限

生産終了後も 5 年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

・・・・・・・・・・ 定格 DJ-P300 ・・・・・・・・・・

項目	内容
送受信周波数	421.5750 ～ 421.7875MHz、421.8125 ～ 421.9125MHz
	422.0500 ～ 422.1750MHz、422.2000 ～ 422.3000MHz
	440.0250 ～ 440.2375MHz、440.2625 ～ 440.3625MHz
周波数制御チャンネル	421.8000MHz、440.2500MHz
電波形式	F3E（FM)、F1D（FSK）
送信出力	10mW、1mW
受信感度	-14dBu 以下（12dB　SINAD）
音声出力	本体スピーカー 400mW 以上、外部出力 80mW 以上
通信方式	単信、半複信、複信
定格電圧	DC3V ～ 3.7V
外部電源端子	DC5V ～ 6V　EIAJ 区分 2
消費電流	送信時：約 70mA（10mW)、約 65mA（1mW）
	受信定格出力時（50mW)：本体　約 160mA、外部　約 130mA
	受信待ち受け時：約 70mA
	バッテリーセーブ時：約 20mA
動作温度範囲	-10℃～ +50℃（但し充電は 0℃～ +40℃）
寸法	高さ 98.8mm ×幅 55.0mm ×厚さ 29.3mm（最薄部 24.0mm）突起物除く
	アンテナ長　163.5mm
重さ	120g (ベルトクリップ、電池含まず)

- 仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略している場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。
- 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東 京 支 店 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888
大 阪 支 店 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコービル2階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／ 10:00～17:00 月曜～金曜（祝祭日及び 12:00～13:00 は除きます）
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業」をご覧ください。

PS0902
FNEK-NG

DJ-P300　拡張版 取扱説明書

DJ-P300 特定小電力トランシーバーは多彩な機能を搭載しています。
本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない「通話モード」「セットモード」「拡張セットモード」の詳細について説明します。

１）通話モード

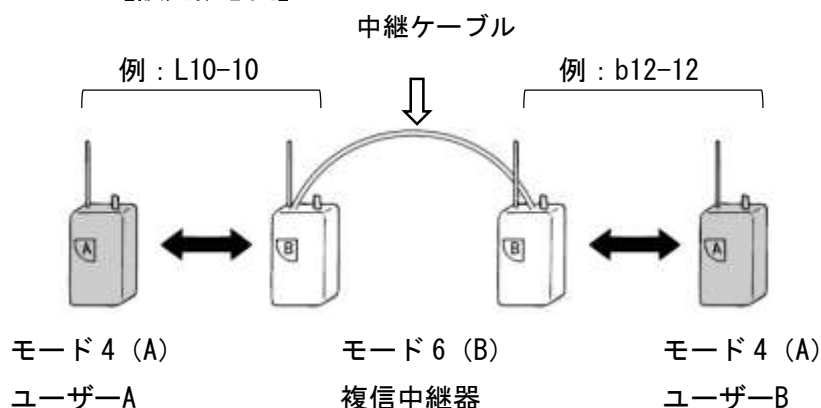
モード番号	通話方式	使用可能チャンネル	ページ
4	複信中継子機（PTT タイプ）	L10～18、b12～29	P.1～P.3
	複信中継子機（電話タイプ）	L10～18、b12～29	P.1～P.3
14	交互通話　TOP 短縮モード	A～H	P.4
15	同時通話　TOP 短縮モード	A～H	P.4
16	フリーチャンネル同時通話	自動切り替え	P.5～P.6

モード 0、1、2、9 については製品に付属の取扱説明書をご参照ください。

モード 4：複信中継子機（PTT タイプ）

直接では電波が届かない場所にいる相手と、中継器を介して同時通話をするモードです。
同時通話の方式には「PTT タイプ」と「電話タイプ」があります。初期状態は旧モデルで「強制モード」と呼んでいた PTT タイプです。
・PTT タイプ：[PTT] キーを押して送信します。（双方が好きなタイミングで送信できます。）
・電話タイプ：電話のように呼び出し音に応答する手順で通話をおこないます。

【設定概念図】

中継ケーブル
例：L10-10
例：b12-12
モード 4（A）
ユーザーA
モード 6（B）
複信中継器
モード 4（A）
ユーザーB

【設定上の注意】

・ 複信中継器に設定した無線機 2 台をオプションの中継ケーブルで接続します。
複信中継器には弊社製 DJ-R200D、中継ケーブルには弊社オプションの ADUA-97 をご使用ください。
また、中継器の設定方法は DJ-R200D の拡張版取扱説明書をご参照下さい。
http://www.alinco.co.jp/division/electron/dl/DJ-R200D_complete.pdf

・ 設定概念図のように、ユーザーA と B は異なるチャンネルとグループ番号に設定してください。
同じチャンネルに設定すると干渉して正しく動作しません。概念図は単なる例で、運用現場の電波環境によって安定して動作するチャンネル、グループ番号を探し、十分に動作確認をしてください。それぞれ近接するより大きく離れた番号のほうが原則的に干渉しにくくなります。

・ 周波数帯設定は子機を A に設定した場合は、中継器を B に設定してください。子機を B にしたら中継器は A です。どちらを A にしたほうが良く飛ぶ、ということはありません。単純に設定の問題です。

・ 同時通話では必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）を使わないとハウリングが発生して通話できません。本機はねじ込み式のジャックを採用しています。プラグは止まるまで手でしっかりねじ込んでください。ペンチなど工具を使って無理に締め付けすぎると壊れます。

【子機の設定 / モード４ PTT】

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。
＊ダイヤルを回してモード 4 に設定します。4A と
チャンネル、グループ番号が表示されます。
[PTT]キーを押して確定します。

＊ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。
＊ダイヤルを 2 回押すとグループ番号が点滅します。点滅中にダイヤルを回してグループ番号を設定します。
＊［PTT］キーを押すと設定が終わります。
＊ 必要があれば、周波数帯 4A を 4b に切り替えます。［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［フック（A/B)］キーを押すごとに A と b が切り替わります。

【PTT モードの呼び出し方】

本機に接続した外部マイクの［PTT］キーを押します。送 が点灯します。
外部マイクに向かって話します。[PTT]キーを放せば、交互通話のように通話できます。
同時通話をするには別のユーザーも[PTT]キーを押します。同時通話状態になると 送 受 が点灯します。
＊通話を終了するときは外部マイクの［PTT］キーを押します。送信が停止し 送 が消灯します。
本機の同時通話時の初期設定では、一度 PTT を押すと次にもう一度押すまで送信状態を維持する PTT ホールド機能が有効になっていますが、これをセットモードでオフにして、イヤホンマイクの機構的なキーロックを使うなど、カスタマイズもできます。
＊電波が途切れても送信を続けます。電波状態が回復すると自動的に通話できるようになります。
＊送信状態で電源を切っても、次に電源を入れると自動的に送信状態で起動します。故障の原因にはなりません。

【子機の設定 / モード4 電話】

電話のようにプルプル音で呼び出してから通話します。

PTT モードと同じ操作をして、グループ番号まで設定します。

＊［ファンクション］キーを押し 点灯中に［フック（A/B)］キーを約 2 秒間押します。

が点灯します。

【電話モードの呼び出し方】

呼び出す人が外部マイクの［PTT］キーを押します。送 が点灯して、10 秒間呼び出し音が鳴ります。この間に、相手からの返事を待ちます。呼び出す人は音が鳴っている間に外部マイクの［PTT］キーを押します。最初に PTT キーを押した人と同時通話になり、 送受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。(発呼する人は、応答する人をあらかじめ指定することはできません。)

通話を終了するときは外部マイクの［PTT］キーを押します。

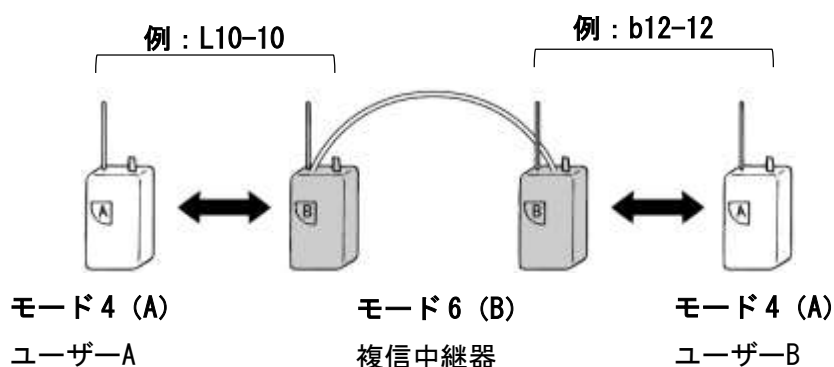
送信が停止し 送 が消灯します。

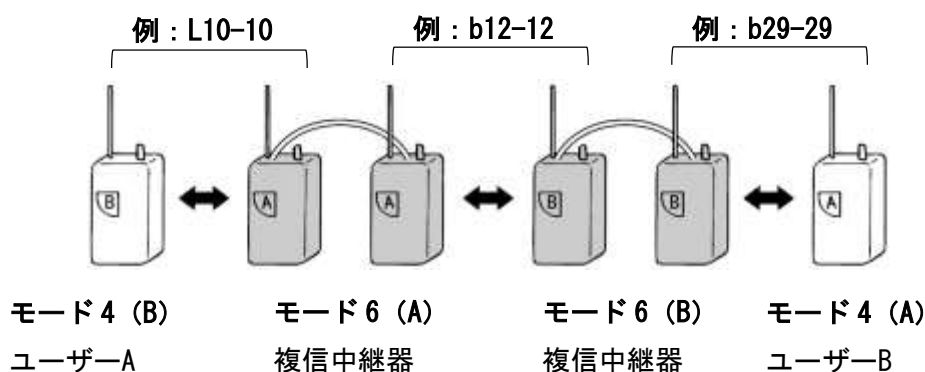
＊電波が途切れたら通話は終わります。改めて呼出し手順をします。

【中継器との接続例】

・奇数組の場合

下記イラストを参考にチャンネル、グループ番号、周波数帯を設定してください。

【設定概念図】

・偶数組の場合

下記イラストを参考にチャンネル、グループ番号、周波数帯を設定してください。

モード 14：交互通話の 10mW 疑似連続送信（タイムアウトペナルティ TOP 短縮モード）

特定小電力トランシーバーには、送信出力 10mW で使うとき、3 分間連続で送信すると自動的に受信に戻り、そのあと２秒以上経たないと再送信できない、規格上の「タイムアウト」制限の決まりがあります。モード 14 では、あらかじめプログラムされた 2 つのチャンネルを、3 分制限に達する直前に自動で切り替えて、通常 2 秒間のタイムアウトペナルティ時間を約 0.5 秒に短縮して送信を継続します。これを繰り返すことで、疑似的なハイパワー連続送信ができます。
移動した先のチャンネルが別のユーザーに使われていないか確認する「キャリアセンス」をするので、この約 0.5 秒の休止時間が発生します。移動した側のチャンネルが使われていれば疑似連続送信にならないこともあります。

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。ダイヤルを回してモード 14 を選び、[PTT] キーを押して確定します。

＊ダイヤルを回して、全ユーザーが同じチャンネルに合わせます。
チャンネルは A～H の 8 通りがあり、チャンネル番号とグループ番号はあらかじめセットされています。
＊［PTT］キーを押すと送信が始まります。交互通話の要領で通話します。

モード 15：同時通話の 10mW 疑似連続通話 （タイムアウトペナルティ TOP 短縮モード）

モード１４同様の機能で、同時通話向けの設定です。

モード 15 の同時通話では必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）が必要です。外部マイクを使用しないと原理上ハウリングが発生します。

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。ダイヤルを回してモード 15 に設定、[PTT] キーを押して確定します。

＊ダイヤルを回して A～H の 8 通りから１つチャンネルを選びます。チャンネル番号とグループ番号はあらかじめセットされています。

外部マイクの［PTT］キーを押して送信します。[PTT] キーは一度押して送信、もう一度押して受信待ち受けになります。信号を受信したら外部マイクの［PTT］キーを押して応答します。
双方が送信状態になれば同時通話ができます。双方がもう一度［PTT］キーを押すと通話が終わります。

※PTT キーの動作がこの通りでなければ、PTT ホールド機能を解除している、イヤホンマイク側の PTT ロックを使っている、などが考えられます。

移動した側のチャンネルが使われていれば疑似連続送信にならないこともあります。玉掛け作業など絶対に安定した連続通話が必要な時はご注意ください。

モード 16：フリーチャンネル同時通話

あらかじめペアリングをした 2 台が自動的に空きチャンネルを探し同時通話をおこなうモードです。お使いになる前に通話をおこなう 2 台で「ペアリング」をおこなってください。一度ペアリングしておけば、以降はチャンネル設定や変更の手間が省けます。

【ペアリングの設定】

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。
＊ダイヤルを回してモード 16 に設定します。16 と
初期状態の「no-Pr」（ノーペア）が表示されます。
[PTT]キーを押して確定します。
＊もう片方も同じようにモード 16 に設定して「no-Pr」の表示にします。
＊片方の機器の[PTT]キーを 1 回押すことで両方の機器がペアリングの準備状態になり「rdy-Pr」が表示されます。
＊ペアリング準備状態から 10 秒以内にもう片方の機器の[PTT]キーを 1 回押すことで両方の機器でペアリングが開始され「now-Pr」が表示されます。
＊ペアリングが完了すると自動的に再起動します。
＊再起動すると「SCn ○○」が表示されます。
○○には 00～99 までのペア番号が自動的に割り当てられます。ペアリングが完了すると両方の機器に同じペア番号が表示されます。

【ペアリングの注意】

・ペアリングをおこなう際は 2 台 1 組でおこなってください。3 台以上でペアリングをおこなうと正しくペアリングできないことがあります。
・ペア番号はランダムで 00～99 の番号が割り当てられるので、まれに同じペア番号でペアリングする場合があります。その際は後述するペア番号の初期化を行い、再度ペアリングの設定をおこなってください。

【フリーチャンネル同時通話】

＊片方の機器に接続されている外部マイクの[PTT]キーを押して送信します。このとき空きチャンネルを自動で探しだし、空きチャンネルを見つけると送信され 送 が点灯して、使用しているチャンネルが表示されます。

＊もう片方の機器に 受 が表示され、受信音声が鳴っていることを確認して接続されている外部マイクの[PTT]キーを押します。
同時通話状態になると 送受 が点灯して、使用しているチャンネルが表示されます。
双方がもう一度［PTT］キーを押すと通話が終わります。

【フリーチャンネル同時通話の注意】

・同時通話では必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）を使わないとハウリングが発生して通話できません。本機はねじ込み式のジャックを採用しています。プラグは止まるまで手でしっかりねじ込んでください。但しペンチなど工具を使って無理に締め付けすぎると壊れます。

・フルーチャンネル同時通話モードは待ち受け中でもバッテリーセーブが強制的に OFF 状態になり電池の消耗が大きくなります。

・同時通話の開始と応答のときはチャンネルをスキャンして空きチャンネルを探しているため、通常の同時通話より通話開始時の頭切れ時間が長くなります。

・スキャンするチャンネルの範囲はセットモード No.10 の送信出力設定によって決定されます。
チャンネルの範囲によって送信出力や連続通話の条件が変化します。

Pow-At：L10～L18、b12～b29 のチャンネル範囲をスキャン、10mW 出力で同時通話
Pow-Hi：L10～L18 のチャンネル範囲をスキャン、10mW 出力で同時通話
Pow-Lo：b12～b29 のチャンネル範囲をスキャン、1mW 出力で連続同時通話

【ペア番号の初期化】

ペア番号は簡易リセットもしくは完全リセットで初期化されます。また、他の設定を消さずにペア番号のみを初期化する方法は[ファンクション]キーを押し F 点灯中に[フック]キーを 3 秒以上押し続けます。初期化が開始されると「Pr ErASE」と表示し自動的に再起動されます。初期化が完了すると再起動後に NO ペア状態の「no-Pr」が表示されます。

２）製品説明書で説明していない標準セットモード項目について

※ セットモード No.1～No.15 は特に基本なので、操作方法は製品に付属する説明書に記載しています。
製品説明書ＰＤＦ：http://www.alinco.co.jp/division/electron/dl/DJ-R200D_complete.pdf

【セットモードの操作手順】［ファンクション］キーを押し F 点灯中にダイヤルを押します。
・ダイヤルを押すごとにセットモードの項目が切り替わります。
・［フック（A/B)］キーを押すと前項目に戻ります。
・ダイヤルを回して設定値を選択し［PTT］キーを押して設定を完了します。
・No.13 サウンドで「Gdc」「ALL」を選択していると、各セットモードの番号を音声でお知らせします。

※押す回数､はセットモードに入って CH-uoL 表示からダイヤルを押し下げる回数です。

No.	メニュー	表示	選択項目	初期値	※押す回数
1	CH/VOL リバース	CH-voL	CH-voL/voL-CH	CH-voL	－
2	コンパンダー	oFF ComPnd	on/oFF	on	1
3	秘話	oFF ScrbLE	on/oFF	oFF	2
4	ループ（第三者受信）	oFF AFLooP	on/oFF	oFF	3
5	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF	4
6	バッテリーセーブ	on1 bS	oFF/on1/on2/Eco	on1	5
7	オートパワーオフ	oFF APo	oFF/30/60/90/120	oFF	6
8	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5	7
9	PTT ホールド	At PttHLd	At/oFF/on	At	8
10	送信出力	Pow-At	At/Hi/Lo	At	9
11	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF	10
12	操作音量	3 Sd-voL	0～5	3	11
13	サウンド	bp Sound	oFF/bp/Gdc/ALL	bp	12
14	エンドピー	oFF EndP	on/oFF	oFF	13
15	コールバック	oFF CALLb	on/oFF	oFF	14
16	ディスプレイ表示	modE	modE/SmEtEr/Cntdn/FrEq	modE	15
17	スケルチレベル	SqL 3	0～5	3	16
18	キーロック時間	Loc 2	1～3	2	17
19	メモリー表示	numbEr	numbEr/mode/no-mode	numbEr	18
20	音色変更	1 mELody	1～3	1	19
21	電池電圧参照	oo O.OO	-	-	20
22	LCD 消灯	on Lcd	on/oFF	on	21
23	外部音量変更	EvoL-H	L/H	H	22
24	イヤホン断線検知	on EAr-C	on/oFF	on	23

No.16 ディスプレイ表示 modE
ディスプレイのモード番号表示部に、モード番号以外のその他の情報を表示させることができます。
modE：通話モード番号を表示
SmEtEr：S/RF メーター表示 （縦棒で表示）
Cntdn：通話残り時間表示、１８０から１秒単位。３分タイムアウト計測用。
FrEq：チャンネル番号の代わりに周波数を MHz 単位で表示。422.200=422.200MHz

No.17　スケルチレベル　SqL 3

スケルチのレベルを 0～5 の範囲で調整します。待ち受け時に鳴る「ザー」という雑音を消す機能で、ゼロで開放（ザーが鳴りっぱなし）です。ザーが鳴らなくなった数字の１つ上あたりに設定します。大きくし過ぎるとノイズでスケルチが開くことが減る分、弱い信号は聞こえなくなります。電波環境でレベルが変わることがあるので微調整できるようになっています。

No.18　キーロック時間　Loc 2

キーロックするときのキーを押し続ける時間を設定します。時間を長くすればキーロック設定の誤操作が少なくなります。

No.19　メモリー表示　numbEr

メモリーチャンネル運用時の表示方法を変更する機能です。

number：メモリーチャンネル番号表示

mode：モード番号表示

no-mode：メモリーチャンネル番号とモードの同時表示

No.20　音色変更　1 mELody

モード 2、モード 4 の同時通話電話タイプの呼び出し音、着信音、ベル機能の音色が変えられます。

モニターボタンを押すと音色が確認できます。

No.21　電池電圧参照　t3 または Li-数字

電池のタイプと電圧を表示します。「t3」は単三形電池、「Li」はリチウムイオンバッテリーパックを示します。外部電源端子から電圧が供給されているときは「FULL」を示します。

表示は目安で、個体のばらつきもあります。電池が切れるときの数値を覚えておくと、より精度の高い減電池表示として使えます。

No.22　LCD 消灯　on Lcd

送受信中にディスプレイ表示を消灯する機能です。液晶が発するノイズが原因で送受信音に雑音が入ることがあり、ON にするとノイズ対策に有効な場合があります。

No.23　外部音量変更　EvoL-H

外部出力端子へイヤホンなどを接続して使用する際、音量が大きい場合には L 設定にして全体的にボリュームを下げることができます。スピーカーマイクで大きな音を鳴らしたい時は H 設定にします。

No.24　イヤホン断線検知　on EAr-C

本機は起動時に自動的にイヤホン断線検知をおこないます。インピーダンスが高いなど、外部出力端子へ接続する機器によってはまれに断線検知が誤動作することもあり、OFF が選べるようになっています。

３）拡張セットモード

本機には、普段の使用には余り必要が無くても環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を拡張セットモードに持たせています。通常の設定項目にしなければならないほどには頻繁に使われない上、意味が分かってお使いいただかないと電池を早く消費したり、表示が変わったり、一部の機能が使用できなくなるなど「故障かな？」と思うような動作をするので、拡張操作をしないと使えないようにしています。内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、操作方法も敢えてこの説明書の最後に記載しました。増えた項目は、通常のセットモード項目の後ろに続けて表示されます。

ユーザーが誤って管理者設定を変更するリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、完全リセットをしないと初期化されないようになっています。

No.	メニュー	初期表示	選択項目	初期値
25	マイクゲイン	4 m-GAin	1～7	4
26	デュアルオペレーション再開時間	5 duAL-t	1～5(秒)	5
27	別売アクセサリーの PTT 対応	ALL inSptt	oFF/out/ALL	ALL
28	秘話周波数	34 Scr-Fq	27～34(×0.1KHz)	34
29	秘話エンファシス	on EmPHA	on/oFF	on
30	減電池アラーム（アラーム間隔）	oFF bAtt-C	oFF/5～60(秒)	oFF
31	グループトーク TSQ/DCS	ton GrouP	ton/Cd1/Cd2	ton
32	VOX ディレイ時間	10 vod-t	1～30（×0.1 秒）	10
33	チャンネル表示	AL CHdiSP	AL/noL/oFF	AL
34	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1～5	2
35	AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL
36	AGC ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03～24（×-1dB、 3dB Step）	6
37	通話圏内確認	oFF ArEA-C	on/oFF	oFF
38	テールノイズキャンセル	on tAiLnC	on/oFF	on
39	フックキー割り当て	Hoo Hoobtn	Hoo/vLO	Hoo
40	レストア	oFF rESto	oFF/SAv/Lod/dEt	oFF
41	減電池スリープ	on bt-SLP	on/oFF	on

No.25　マイクゲイン　4 m-GAin

通話時の癖やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする)、音が歪む（声が大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できるようになっています。他社製のマイクをお使いになる時もレベル調整が必要になる場合があります。設定を間違うと声が小さくなったり歪んだりしますのでご注意ください。

No.26　デュアルオペレーション再開時間　5 duAL-t

デュアルオペレーションモードで通話が終わり、交互受信が再開するまでの時間を変更できます。通常は通話終了から 5 秒経過後に再開されますが、このタイミングを短くできます。

No.27　別売アクセサリーのPTT対応　ALL inSptt
4極プラグのオプションイヤホン、スピーカーマイク等を使うときに、本機PTTと本機マイクの有効／無効を選べます。使用するアクセサリーに合わせて設定してください。

oFF　：本機PTT無効・本機マイク無効（オプションのPTTとマイクのみ有効）
out　：本機PTT有効・本機マイク無効（マイクは外部マイクのみ有効、PTTは両方が有効）
ALL　：本機PTT有効・本機マイク有効（イヤホンだけを使うときの設定）

※ out、ALLでスピーカーマイクを使うとき、本機PTTを押しても送信できません。スピーカーマイクのPTTを押して送信してください。

No.28　秘話周波数　34 Scr-Fq
秘話のキャリア周波数を設定します。初期値と異なるキャリア周波数を使うときは、通話したいグループ全員の設定を同じ値に揃えて変更してください。

No.29　秘話エンファシス　on EmPHA
弊社の秘話搭載特定小電力トランシーバーや他メーカの秘話搭載特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって通話の相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えることによって改善される場合がありますのでお試しください。

No.30　減電池アラーム（アラーム間隔）oFF bAtt-C
電池の電圧が低下するとディスプレイ右上の電池マークが点滅し、減電池をお知らせします。このとき設定時間ごとに1回、電池が減っていることを音で知らせることができます。お知らせ音は設定や電池の種類によって異なります。電池が減っている状態で音を鳴らしてお知らせするため、間隔を短く設定するほど早く電池が切れてしまいます。

セットモード No.13 サウンドが「bp」の場合
→アラームで「ププッ」音が鳴ります

セットモード No.13 サウンドが「GdC」「ALL」でEBP-60を入れている場合
→音声で「充電して下さい」が鳴ります

セットモード No.13 サウンドが「GdC」「ALL」で乾電池を入れている場合
→音声で「電池を交換して下さい」が鳴ります

No.31　グループトーク・モード（TSQ/DCS）　ton GrouP
本機のグループトーク機能は一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えをCd1、Cd2に設定し、通常のグループトークと同様に通常画面で GROUP キーを押すことで DCS 番号を設定できます。グループ番号の変更はトーンスケルチと同様、ダイヤルを 2 回押した後ダイヤルを回してください。Cd1、Cd2 設定によって変更できるグループのコード数と表示が選べます。

Cd1：01～83 の 83 通りのコード番号から選択（待ち受け時「_○○」とコード番号を表示）
Cd2：Cd017～Cd754 の 108 通りのコードから選択
（待ち受け時「_Cd」と表示され、変更時に「Cd_○○○」とコードを表示）

※3 者同時通話、同時通話、連結中継通話、連続通話はグループトーク設定をすることはできません。

No.32　VOX ディレイ時間 10 vod-t
VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間、送信状態を保持するので息継ぎしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、息継ぎなどですぐ送信が落ちることもあり、実験して確かめてからお使いください。

No.33　チャンネル表示　AL CHdiSP
本機のチャンネルは L01～L09、b01～b11 と表示されます。noL に変更すると他社製無線機の 01～20 方式に変更することができます。

AL	noL
L01～L09	12～20
b01～b11	01～11
L10～L18（中継，同時）	19～27（中継，同時）
b12～b29（中継，同時）	01～18（中継，同時）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。再設定する場合はチャンネル表示を noL または AL にしてください。

No.34　グループトーク判別精度　2 mG-ton
※重要：３者同時通話をするときは必ず初期値の２にしてください。３者のトーンが正しく判定できないと、３者通話はできません。
グループトークでのトーンの判定精度を調整することができます。同じグループトーク番号に設定しているのにスケルチが開かない、ノイズでトーンが乱される、など障害がある時に有効です。１が最も厳しく、５が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、後述の、初期設定では動作するテールノイズキャンセル機能が働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の２は、かなり正確なトーン判定をします。

No.35　マイク AGC 切り替え　SL AGC
マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC（自動ゲイン調整）で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他機種と混用する場合、相性問題を解決できることがありますが、下手に設定を変えると逆に音が悪くなることもあります。複数の機種が混在するときは全部の機種で音質確認してください。

No.36　AGC ターゲットレベル調整　06 AGC-tG

マイク AGC 設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。
設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるので必ず実験してからお使いください。

No.37　通話圏内確認　oFF ArEA-C

グループトーク中に相手との通話が可能かどうかの目安を表示することができます。モード 1 でグループトーク機能設定（トーン、DCS）を入れた状態で通話圏内確認設定を ON にしたとき、モード番号の右側に通信状態が表示されます。

「≡ 」点滅：圏内に通話できる相手が居るか、検索しています。
「C 」点灯：通話可能かどうか確認するための信号を送っています。

「≡ 」点灯：信号は強く良好な通話が可能。
「＝ 」点灯：信号は普通、おおむね良好な通話が可能。
「＿ 」点灯：通話が可能だが信号は弱く、途切れることがある。
「＿ 」点滅：相手が離れているか電源が切られているなどで、通話できない。

メモ）通話したいグループ全員の通話圏内確認を ON にして同じグループ番号にしてください。約 1 分毎に一瞬ですが通話が可能か確認をするので、そのタイミングが別のユーザーのチェック動作と重なると正しく判断できなくなります。これを防ぐため、この機能を使うときは電源を入れるタイミングを全員少しずつずらせてください。また、3 人以上のグループで使用する際は、圏内判定が正確に表示されない場合がありますが、この表示が実際の通話の距離や音質に影響することはありません。

No.38　テールノイズキャンセル　on tAiLnC

本機はグループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信状態から待ち受け状態になるときの「ザッ」というノイズ音）を除去するテールノイズキャンセル機能が入っています。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方で有効にしたときのみ動作します。
この機能が入っていないトランシーバーと通話するとき、この設定を変える必要はありませんがテールノイズは聞こえてしまいます。

No.39 フックキー割り当て　Hoo Hoobtn

本機の［フック（A/B)］キーは初期状態では同時通話モード電話タイプでの呼出・応答、デュアルオペレーションのサブチャンネル PTT、ペア番号の初期化に割り当てていますが、別の機能に変更できます。

vLO：受信音声ミュート

受信音声をミュート（消音）させたい場合に選びます。［フック（A/B)］キーを 1 回押すと受信音声が止まり、ダイヤル操作より手軽に受信音をミュートすることができます。ミュート状態を解除するには［フック（A/B)］キーをもう一度押すか、ダイヤル操作で音量を変更します。

No.40 レストア　oFF rESto

チャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報をリセットしても消えないように記憶させ、復元させる機能です。リセット後の面倒な設定やり直しをせずに済みます。

＊本体を記憶させたい状態に設定します。ダイヤルを回して Sau/Lod/dEt を選びます。

SAv: [グループ]キーを 2 秒押し続けるとチャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報が保存され「rSt writE」を表示します。新しい設定を記憶するときは、この操作を繰り返せば上書きできます。

Lod: [グループ]キーを 2 秒押し続けると保存した情報を復元します。復元が終わると「rSt rEAd」が表示され、自動的に再起動します。何も保存されていない場合、「rSt nodAtA」が表示され読み出しがキャンセルされます。

dEt: [グループ]キーを 2 秒押し続けると記憶させた情報を消去します。終わると「rSt ErASE」が表示されます。完全に工場出荷状態まで戻す時は、消去してからオールリセットしてください。

No.41 減電池スリープ　on bt-SLP

スイッチを切り忘れるなどで過放電させると、バッテリーパックや乾電池の劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐため電池の電圧が一定レベルまで低下すると自動的に電源を切ります。それでも待機電流は発生しているので、バッテリーパックは取りだして保管してください。OFF にすると電池を最後まで使い切ることができますが、大きな差はありません。通常は on でお使いください。

［拡張セットモードへの切り替え］

１：キーロックを掛けます。（２つあるうちの、どちらの方法でも同じです。）

２：10 秒以内に[グループ]キーを５回連続で押します。キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープが鳴り、自動的にキーロックが解除されます。

３：セットモードに入ると拡張セットモードメニューが追加されています。

＊ 変更した値を保存して拡張セットモードメニューを隠すには、上記１～３の操作を繰り返します。

＊ チャンネルや通常のセットモードで設定したパラメータも含め、全てを工場出荷状態まで初期化するには、完全リセットを行ってください。

【完全リセット】

電源を切った後[ファンクション]キーとダイヤルを押した状態で電源を入れます。全てのセットモードの内容と登録済みのメモリーがリセットされ、工場出荷状態に戻ります。

レストア機能を使ったときは、セットモード No.40 の rESto メニューで dEt 操作をしてデータを消去しないと完全な出荷状態になりません。

以上

アルインコ（株）電子事業部